

短期大学学生に関する調査研究
-2012年 JCSS 調査 全体集計結果報告-

2013年5月

一般財団法人 短期大学基準協会

JCIRP 短期大学調査チーム

(研究代表:山田 礼子)

目次

巻頭言	
まえがき	1
第1部 図と文章で示す集計結果	3
1 性別	3
2 年齢	3
3 修業年限	4
4 入学年度	4
5 在学状況（学年等）	5
6 居住形態	5
7 通学時間	6
8 高校での成績	6
9 (1) 出身校の種別（国立・公立・私立）	7
9 (2) 共学・別学の別	7
10 経済的援助の有無（日本学生支援機構の奨学金等）	8
11 入学後に経験したことがあることがら	8
12 進学理由と重要度	9
13 留学生か否かの別	10
14 特別な学習支援（学習補助、補習授業等）の経験と希望	11
15 入学後における諸活動の経験の程度	13
16 専門分野の別	15
17 進学志向	15
18 今年度諸活動に費やした時間	16
19 今年度経験したことがらの程度	17
20 同年齢者と比較しての自己評価	18
21 設備やサービスに対する満足度	20
22 教員の提供する支援活動の程度	21
23 入学後の能力・知識の変化	22
24 入学後の適応の程度	23
25 成績（自己評価）	24
26 人生の価値観	25
27-1 女性の生き方についての考え（全体）	27
27-2 女性の生き方についての考え（女子学生のみ）	27
28-1 就職予定者における現況（全体）	28
28-2 就職予定者における現況（1年生のみ）	28
28-3 就職予定者における現況（2年生以上）	28
29 将来希望する職業及びキャリア（上位10位）	30
30 キャリア選択において重視する要素	31

31	短大の教育全般に対する満足度.....	32
32	志望順位.....	33
33	進学時の入試方式.....	34
34	受験決定時期.....	35
35-1	家族内における高等教育機関卒業者の有無.....	36
35-2	家族内における高等教育機関卒業者の続柄.....	37
36	学生生活の充実度.....	38
37	選び直せるとしたときの進学志望.....	38
第2部	集計一覧.....	39
1	性別.....	39
2	年齢.....	39
3	修業年限.....	39
4	入学年度.....	39
5	在学状況（学年等）.....	40
6	居住形態.....	40
7	通学時間.....	40
8	高校での成績.....	40
9 (1)	出身校の種別（国立・公立・私立）.....	41
9 (2)	共学・別学の別.....	41
10-1	経済的援助の有無（日本学生支援機構の奨学金）.....	41
10-2	経済的援助の有無（地方自治体の奨学金）.....	41
10-3	経済的援助の有無（民間団体の奨学金）.....	41
10-4	経済的援助の有無（短大の奨学金や授業料免除）.....	42
10-5	経済的援助の有無（その他の経済的援助）.....	42
11-1	単位を取得できなかった授業の有無.....	42
11-2	補習授業の履修経験の有無.....	42
11-3	人権や民族に関する授業の履修経験の有無.....	42
11-4	女性学の授業の履修経験の有無.....	43
11-5	リーダー養成やキャリア開発訓練への参加経験の有無.....	43
11-6	海外研修プログラムへの参加経験の有無.....	43
11-7	他高等教育機関での履修科目の卒業単位への算入の有無.....	43
11-8	他高等教育機関からの転学の有無.....	43
12	進学理由と重要度.....	44
13	留学生か否かの別.....	44
14	特別な学習支援（学習補助、補習授業等）の経験と希望.....	45
15	入学後における諸活動の経験の程度.....	46
16	専門分野の別.....	47
17	進学志向.....	47

18	今年度諸活動に費やした時間	47
19	今年度経験したことがらの程度	48
20	同年齢者と比較しての自己評価	49
21	短大の設備やサービスに対する満足度（「わからない」を欠損値扱い）	50
	短大の設備やサービスに対する満足度（「わからない」を有効回答扱い）	51
22	教員の提供する支援活動の程度	52
23	入学後の能力・知識の変化	53
24	入学後の適応の程度	54
25	成績（自己評価）	54
26	人生の価値観	55
27-1	女性の生き方についての考え（全体）	56
27-2	女性の生き方についての考え（女子学生のみ）	56
28	就職予定者における現況（全体）	57
	就職予定者における現況（学年別）	57
29	将来希望する職業及びキャリア	58
	将来希望する職業及びキャリア（上位10位まで）	59
30	キャリア選択において重視する要素	59
31	短大の教育全般に対する満足度（「わからない」を欠損値扱い）	60
	短大の教育全般に対する満足度（「わからない」を有効回答扱い）	61
32	志望順位	62
33	進学時の入試方式	62
34	受験決定時期	63
35-1	家族内における高等教育機関卒業者の有無	63
35-2	家族内における高等教育機関卒業者の続柄	64
36	学生生活の充実度	65
37	選び直せるとしたときの進学志望	65
第3部 参加校の意見		66

巻頭言

本冊子は、平成 24 年度に短期大学基準協会調査研究委員会が、「短期大学における主体的改革・改善に資する自己評価方法に関する調査研究」の課題のもと、「短期大学における学習効果測定法の開発」として、山田礼子同志社大学教授をリーダーとする「大学生調査研究プログラム」(JCIRP)の研究開発と協力して実施した、第 5 回「短期大学学生調査 2012 年 (JJCSS2012)」の、全体集計結果であり、本調査の最終報告に当たるものです。

本調査では、平成 20 年度の初回以来の過去 3 回の調査では予算枠の関係から調査件数に上限を設けて実施してきましたが、平成 23 年度調査より参加校に個別経費部分の実費負担をいただくことによって、調査件数に上限を設けず実施し、希望されるすべての短期大学に参加していただくことができるようになりました。また、これによって、各短大にとっては、本調査の毎年の継続的な利用が可能になっています。

平成 24 年 9 月 3 日に本調査の概要を説明した文書及び調査票の見本を全会員校に送付、参加を募った結果、29 校の参加を得ることができました。参加短大に対しては、10 月 30 日に調査票を発送し、12 月中旬に同票の回収、その後、データ入力作業等の整理を行い、平成 25 年 2 月に短期大学ごとの集計結果を参加短期大学にご提供いたしました。さらに、得られたデータ全体を用いての分析が、JCIRP 内に組織された「短期大学学生調査チーム」により進められ、3 月には全体集計結果を中間報告として公表いたしました。そして、その後、参加各校からアンケートにより本調査に関するご意見を伺い、その結果を加えて最終報告書としたのが本冊子です。

この調査では、参加した個々の短期大学は、自校のデータを得るほか、それと全体集計結果や山田教授の研究チームメンバーによる全体データを用いた学術研究とを付き合わせることで、吟味された項目によって、精度の高い自己評価資料が得られることから認証評価への対応に役立つでしょう。また、標準化された調査に参加することによって国際的な比較を含む他機関とのベンチマークが可能となり、さらにはマーケティングへの利用などのメリットがあると考えられます。そして、全体結果自体は、短期大学の実績を社会に示すことになると考えられます。

調査研究委員会では今回の結果を踏まえ、「短期大学学生調査 2013 年 (JJCSS2013)」を実施することとしています。また、本年度には本調査が、より有効で、より多くの会員校に活用していただけるものになるよう、全般的な改善の検討を企画しております。本調査にご協力いただきました関係各位に感謝するとともに、本報告書が様々な形で活用され、本調査が発展して日本の高等教育の展開に資するようになることを願ってやみません。

平成 25 年 5 月

調査研究委員会委員長
館 昭

まえがき

山田 礼子（調査研究委員会委員／同志社大学）

私ども JCIRP（Japanese Cooperative Institutional Research Program）研究グループは一般財団法人短期大学基準協会のご協力と支援を得て、日本版短期大学学生調査（JJCSS=Japanese Junior College Student Survey）を開発し、2008年に初めての調査を実施して以来、毎年調査を実施してきた。今回の調査で5回目になり、本調査も定着してきたのではないかと考えている。

本最終報告書は、2012年の調査結果に関する中間報告書の公表後に、参加各校からアンケートにより本調査に関するご意見を伺い、その結果を加えたものである。2010年からは、中間報告時点で参加短期大学からの調査や調査結果に対するアンケートによるフィードバックをいただき、その結果を最終報告書に反映するような工夫を行った。今年度も同様に、中間報告書では、グラフや表による単純集計の表示と解説を中心に構成し、最終報告書には、参加校からのアンケートによるフィードバックも掲載している。

調査は2012年の9月上旬から10月上旬の約1ヶ月間に会員校全てを対象に参加を募り、11月上旬から12月上旬の約1ヶ月間の期間で調査が実施された。2012年調査の参加短期大学数は29校、参加人数は7102名であった。

調査の募集およびデータの整理、集計、分析は短期大学基準協会とそのなかに設けられた短期大学基準協会調査研究委員会が実施しているが、調査対象学年の選定については、全数調査ではなく、調査に参加する短期大学にお任せしている。

短期大学学生調査（JJCSS）は、これまでに JCIRP 研究グループが実施してきた大学生調査（JCSS=Japanese College Student Survey）と新入生調査（JFS=Japanese Freshman Survey）の知見をベースに開発した調査である。短期大学は四年制大学と比較すると2～3年間という短い課程のなかでの学生の成長を検証していくことが必要となる。しかし、逆に2～3年間という教育課程であるがゆえに、教育目標を設定することにより、カリキュラムの改革に着手しやすい。それゆえ、四年制大学以上に間接調査としての学生調査結果を教員が共有し、教育方法やカリキュラム改革に結果を利用することが可能であると期待できる。

それでは、私どもが開発した間接評価としての学生調査全体のプログラムを紹介し、短期大学学生調査の開発とその意義について述べておきたい。Japanese Cooperative Institutional Research Program（JCIRP）（大学生調査研究プログラム）は新入生調査（JFS）、大学生調査（JCSS）と短期大学学生調査（JJCSS）の3つの学生調査からなるプログラムである。JFSとJCSSは、カリフォルニア大学ロサンゼルス校高等教育研究所（UCLA-HERI）の許諾を得て、HERIが行ってきたCIRP Freshman SurveyとCollege Student Survey（CSS）をもとに日本用の独自項目を加えて開発されている。JJCSSはJCSSなどを参照しながら、日本で短期大学用に独自に開発した調査である。それぞれの調査票は、学生の入学以前の背景、大学や短期大学での経験、満足度、獲得したスキルや能

力、生活習慣、自己評価、価値観等の項目から構成されており、自大学・短期大学の学生の全体像が把握できるようになっている。JCIRP プログラムに参加した場合、参加大学・短期大学の個別調査データを返却することにより、参加機関にとっては、当該大学・短期大学の学生に関する詳細なデータが得られるとともに、同じ調査に参加した他大学を含む全体の学生の統計データとの比較が可能になる。このことにより、①大学教育改革のために役立つ、②入学志願のマーケティングに役立つ、③アクレディテーション（認証評価）対策として役立つ、④ベンチマークとして役立つ、⑤国際比較ができる、⑥共同研究に参加できるというようなメリットがある。

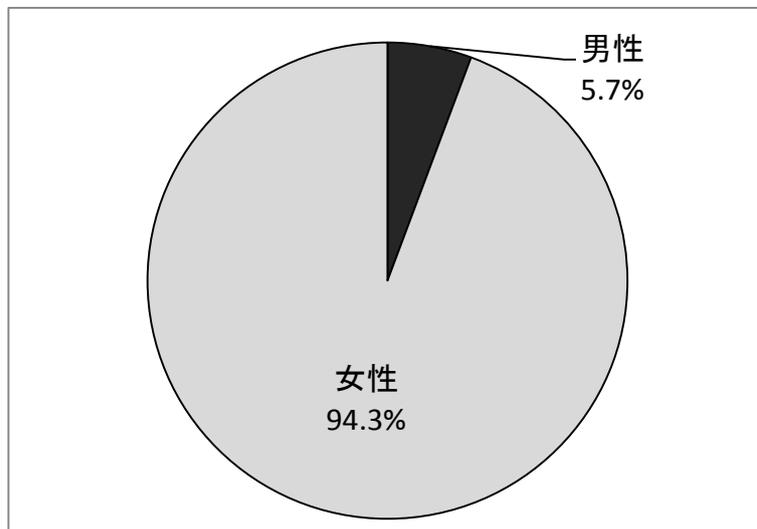
調査結果から得られた学生の傾向から、より学生が授業に活発に参加できるように授業の形態を考えていく資料にもなる。JJCSS 調査の開発に当たっては、四年制大学生調査との違いを把握しながら、質問項目を考察してきた。そうした短期大学の特徴に応じた質問項目が短期大学生の特徴にも反映されているとみることができよう。

参加短期大学からの本調査に関するご意見からは、今後本調査を遂行していく上で、各参加校へのフィードバックの改善につながるような貴重な示唆をたくさんいただいている。

今回 JJCSS に参加された短期大学あるいは今後 JJCSS への参加を企図している短期大学は、是非 JJCSS の分析結果、あるいはデータを利用していただき、より良い短期大学の教育プログラム、学生支援プログラム、そして教員の教育方法の改善など FD にもつなげていただきたいと開発者一同願っている。開発して間もないことから、まだまだ不十分な点が少なくないが、より多くの短期大学の参加と継続して調査をすることを通じて、精緻な分析と短期大学の実態に基づいた調査を開発し、多くの短期大学が利用できるような標準化した調査にしていきたい。

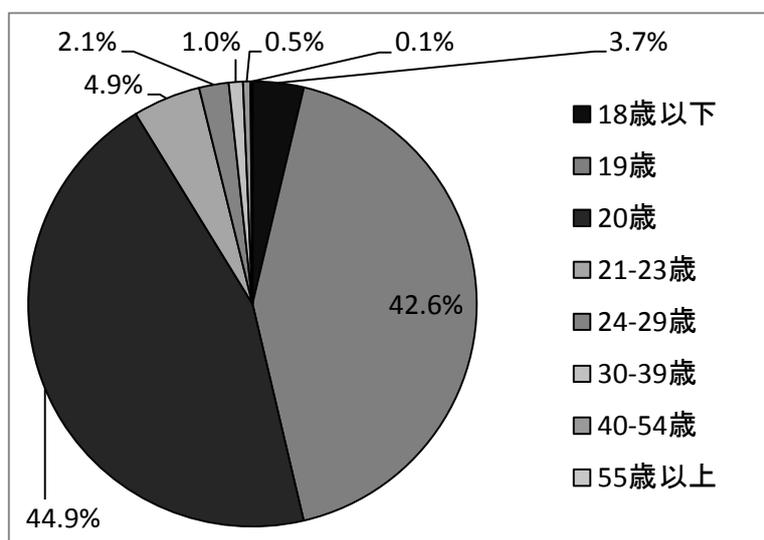
第1部 図と文章で示す集計結果

[1] あなたの性別をお答えください。



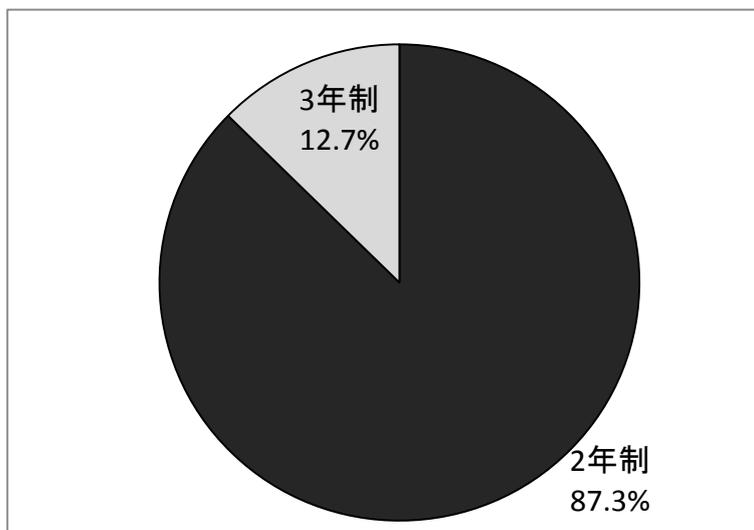
短大生のうち、94.3%が女性であり、男性は5.7%である。

[2] 今年度（2012年4月～2013年3月）、あなたは何歳になりますか。



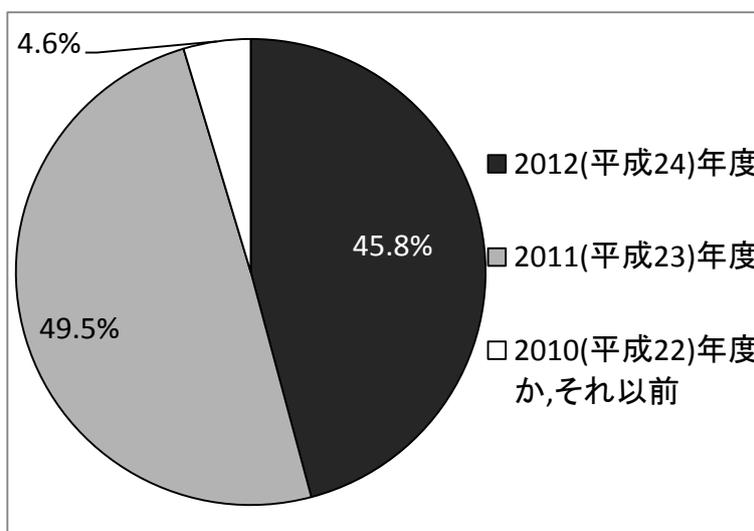
短大生の年齢は、19歳と20歳が多く、全体の87.5%を占めている。

[3] あなたの所属する学科の修業年限を教えてください。



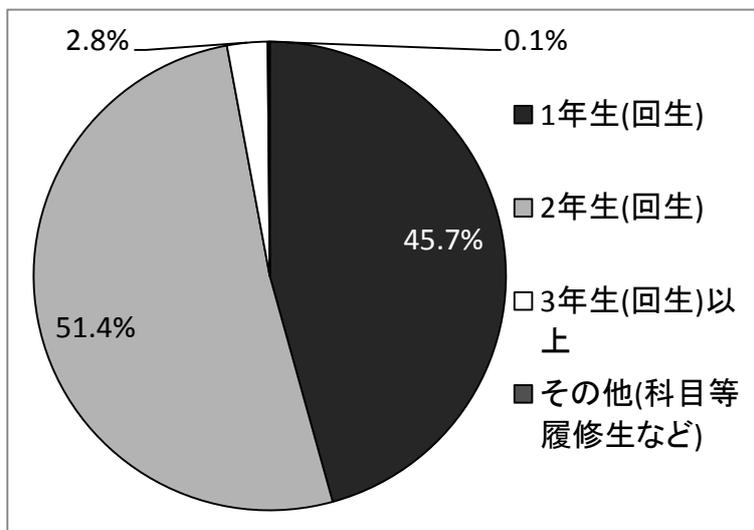
2年制の短大生が87.3%、3年制の短大生が12.7%である。

[4] あなたは本学に何年度に入学しましたか。



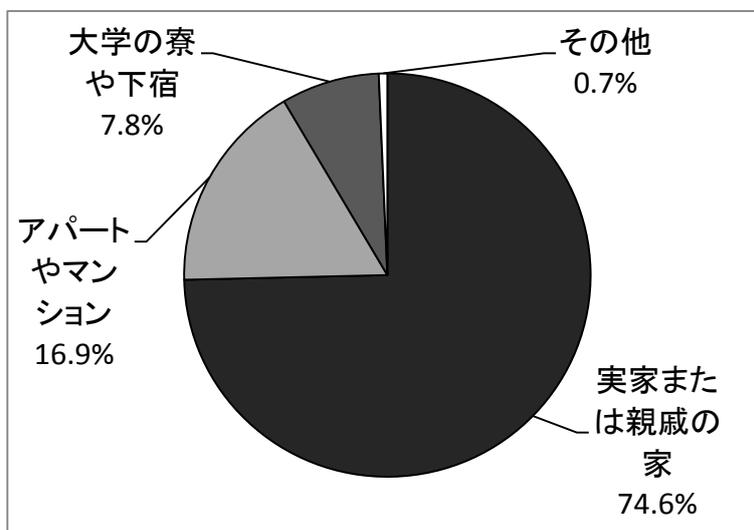
2012年度入学者が45.8%、2011年度入学者が49.5%である。

[5] あなたの現在の在学状況を教えてください。



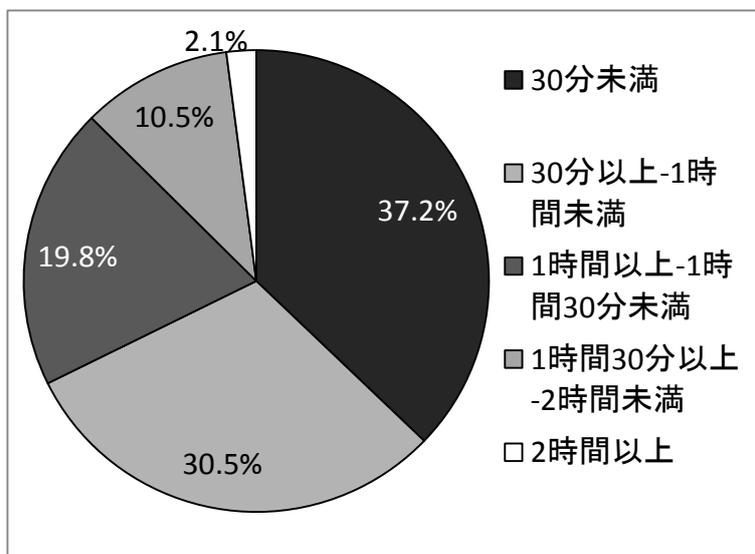
1年生（回生）が45.7%、2年生（回生）が51.4%であり、2年生（回生）の短大生の割合が最も多くなっている。

[6] あなたの現在の住まいは次のうちどれですか。



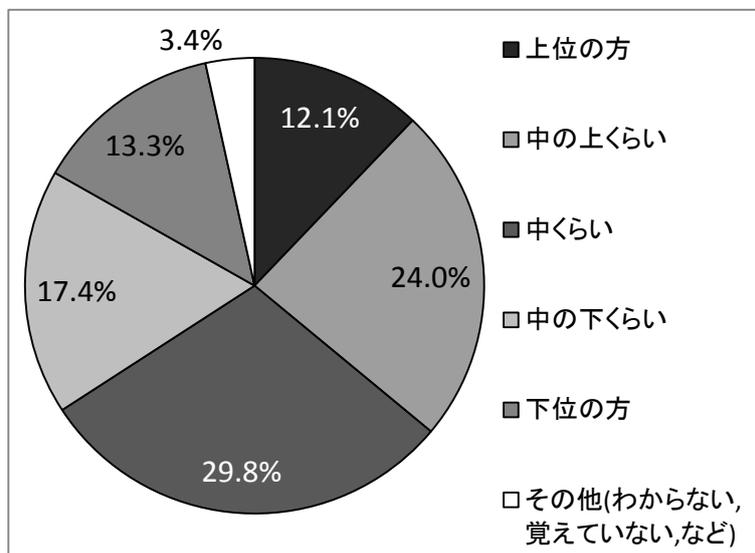
実家または親戚の家に住んでいる短大生は74.6%おり、アパートやマンションは16.9%、大学の寮や下宿は7.8%である。

[7] あなたの片道の通学時間はどれくらいですか。



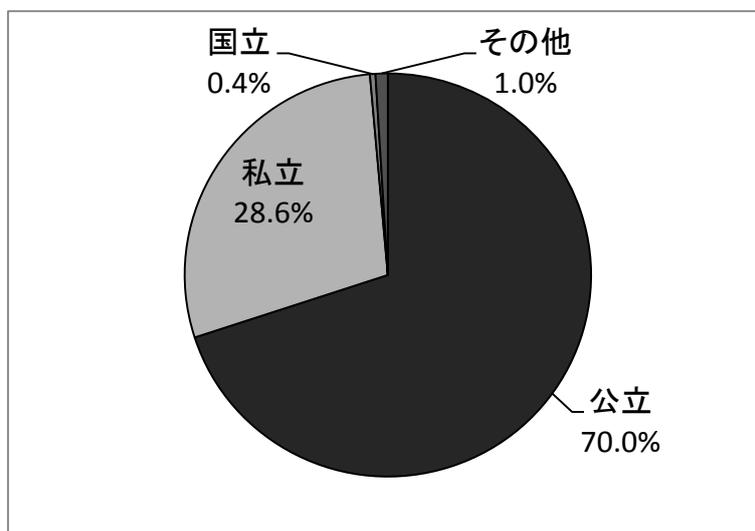
通学時間の回答分布を見ると、30分未満の短大生が37.2%、30分以上1時間未満の短大生が30.5%であり、通学時間が1時間未満の学生と捉えこれらの項目のパーセンテージを合わせると67.7%となる。

[8] あなたの高校での成績はどのあたりでしたか。



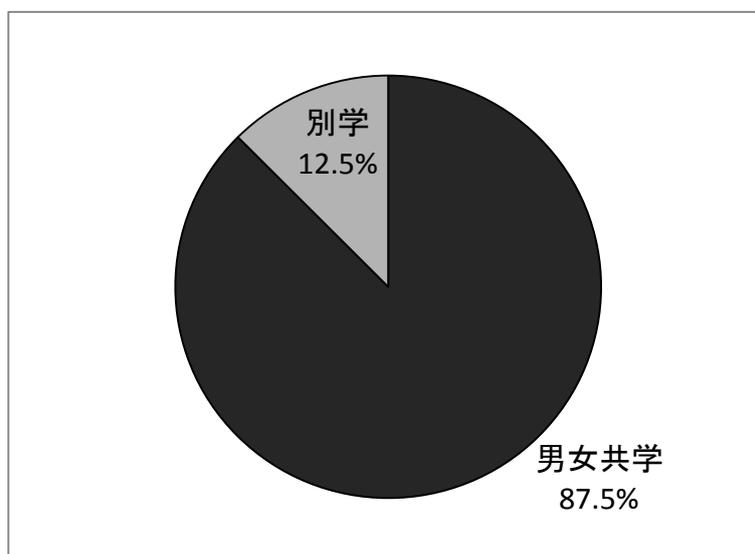
高校での成績を中くらいと回答した者は29.8%である。「上位の方」と「中の上くらい」を合わせると36.1%となり、高校での成績が比較的良かった短大生が多い傾向にある。

[9 (1)] あなたの高校は公立（県立・市立など）、私立、国立のどれでしたか。



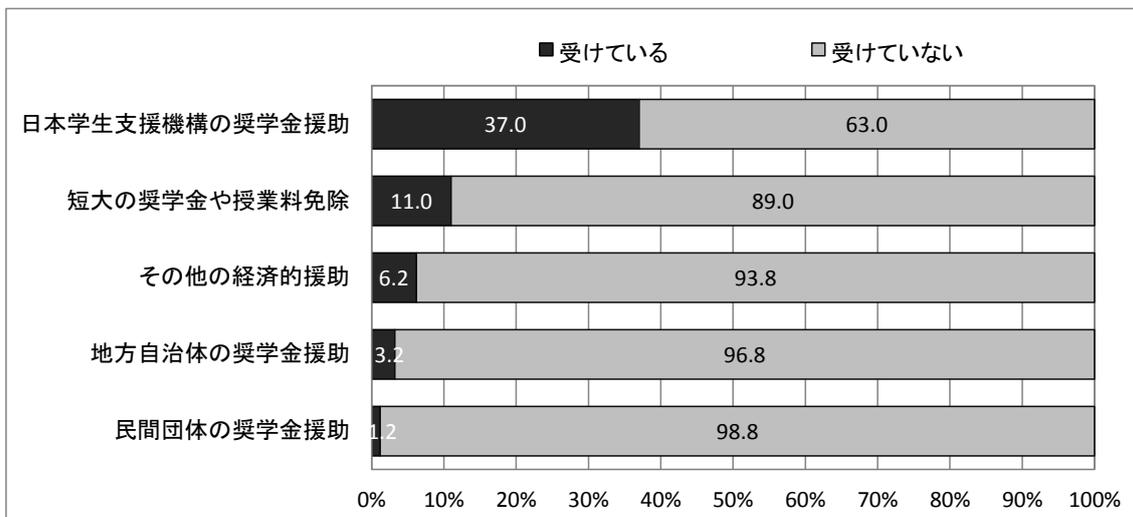
短大生の 70.0%は、公立高校の出身である。

[9 (2)] あなたの高校は男女共学でしたか、別学でしたか。



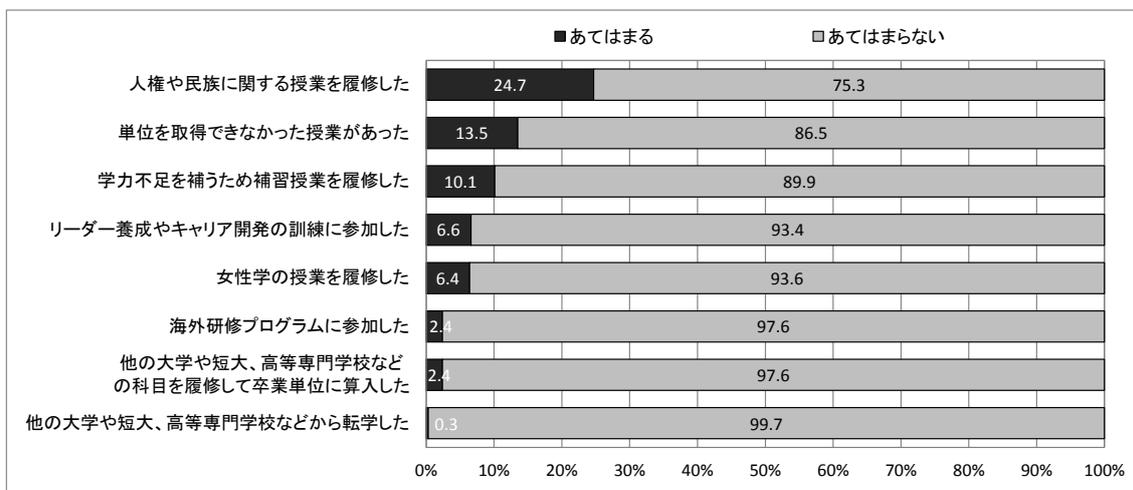
短大生の 87.5%は、男女共学の高校を卒業している。

〔10〕 あなたは奨学金（貸与を含む）や授業料免除など経済的な援助を受けていますか。



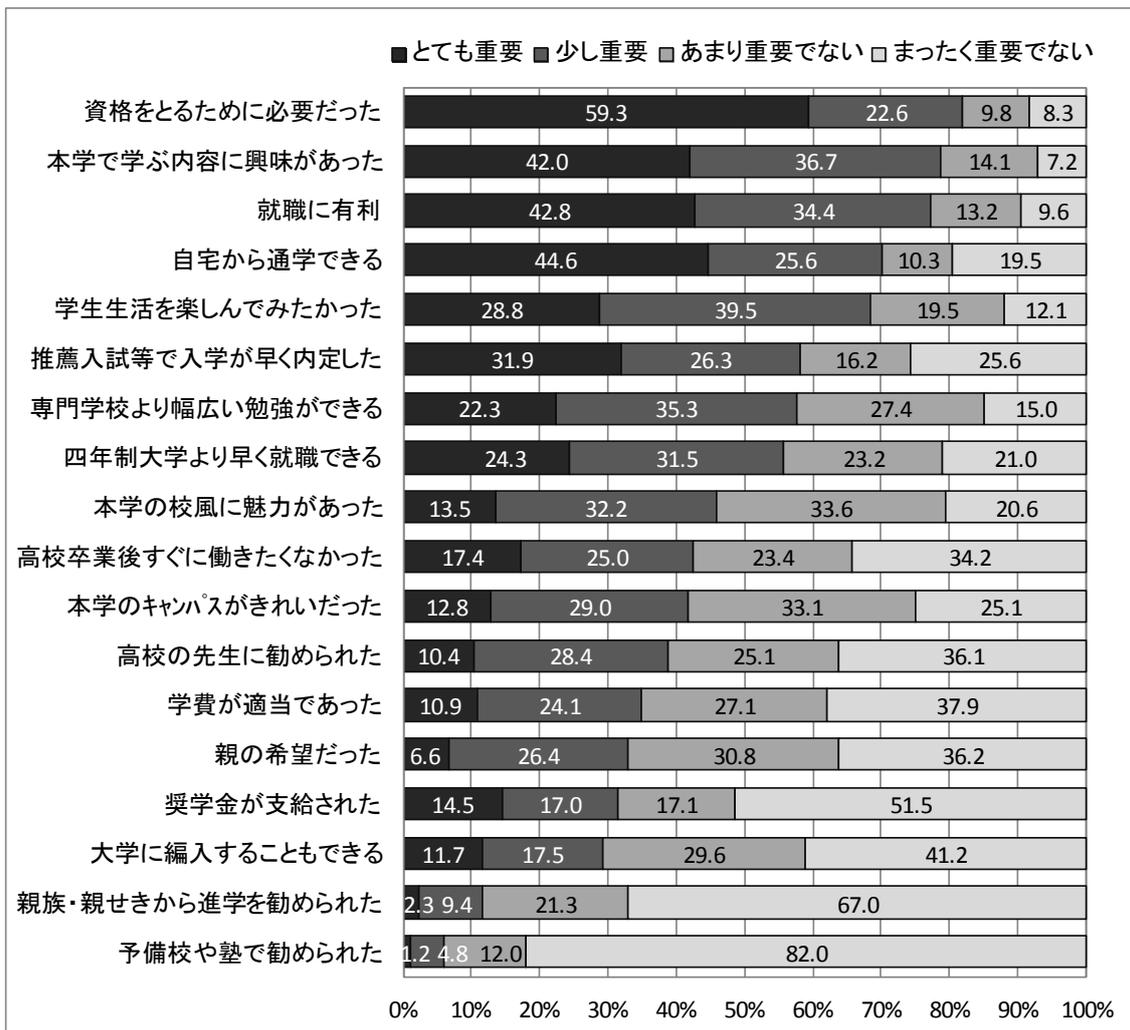
問 10 は、奨学金などの経済的援助に関する問いである。日本学生支援機構の奨学金の利用が最も多く、37.0%の短大生が援助を受けている。続いて、短大の奨学金や授業料免除を受けている短大生が 11.0%見られる。その他の奨学金受給者は数%程度にとどまっている。

〔11〕 入学以来、あなたは以下の項目のことをしましたか。



問 11 は、短大生が短大に入学して以降、経験したことのあることがらを質問している。「あてはまる」と回答した短大生が多い項目を見ると、「人権や民族に関する授業を履修した」(24.7%)、「単位を取得できなかった授業があった」(13.5%)、「学力不足を補うため補習授業を履修した」(10.1%)となっている。

[12] あなたが本学に進学した理由として、次のことがらほどの程度重要でしたか。

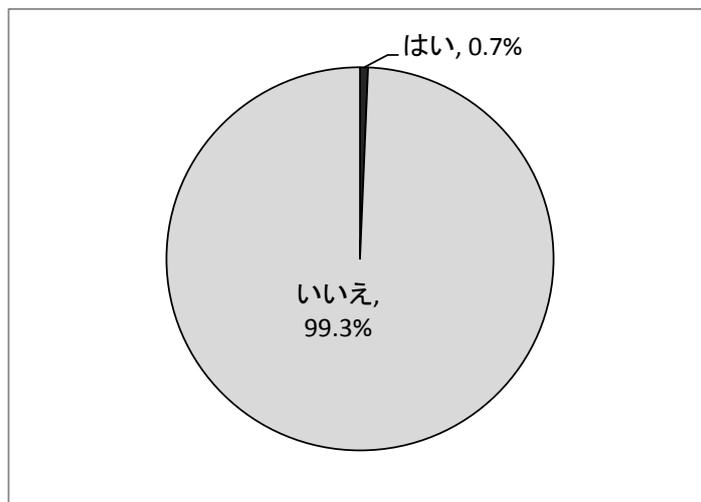


問12は、現在通っている短大への進学を決めた理由として、どのような要素が重視されているかを質問したものである。進学を決めた理由として、「とても重要」と「少し重要」のパーセンテージが最も多かった項目は、「資格をとるために必要だった」(81.9%)であった。続いて、「本学で学ぶ内容に興味があった」(78.7%)、「就職に有利」(77.2%)、「自宅から通学できる」(70.2%)である。ただし、「とても重要」のパーセンテージにのみ着目を見ると、「資格をとるために必要だった」(59.3%)に続く項目は、「自宅から通学できる」(44.6%)である。

一方、「あまり重要でない」と「まったく重要でない」を合わせたパーセンテージが多く、重視されていない項目を見ると、「予備校や塾で勧められた」(94.0%)、「親族・親せきから進学を勧められた」(88.3%)、「大学に編入することもできる」(70.8%)、「奨学金が支給された」(68.6%)である。

進学理由において、他者の勧めや奨学金はさほど重視されておらず、資格の取得や就職、短大で学べる学習内容など、本人の目的と将来への備えが重視されているといえる。

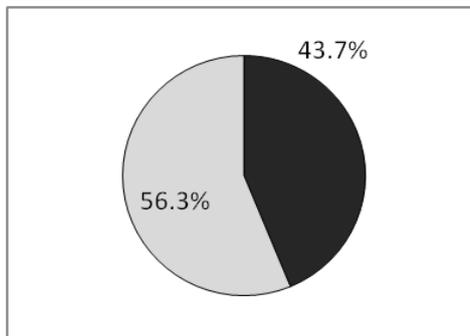
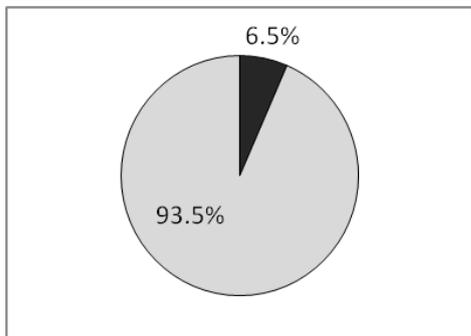
[13] あなたは留学生ですか。



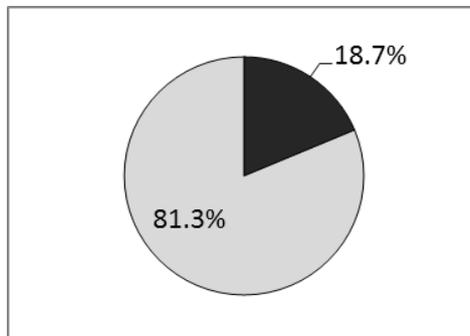
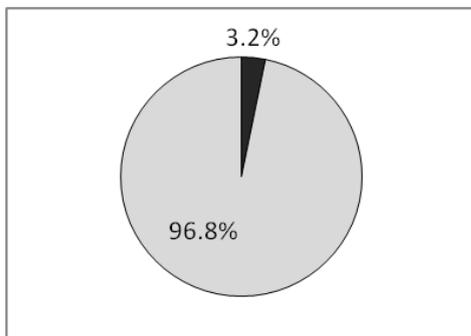
短大生のうち留学生は0.7%であった。

〔14〕あなたは次の科目について、学習補助や補習授業など特別な学習支援を受けていますか。また、そのような支援を受けたいと思いますか。

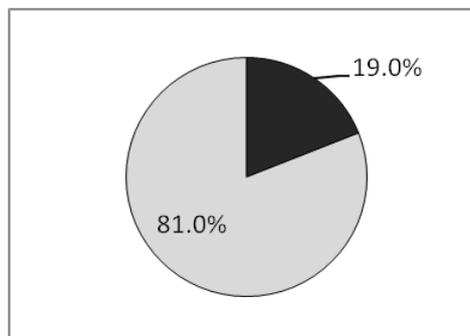
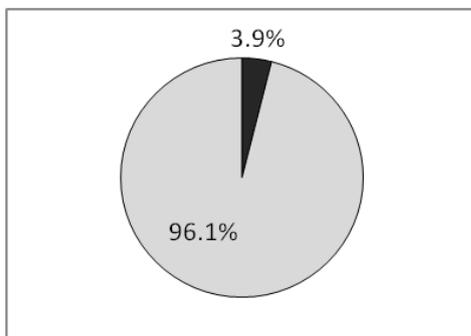
1. 文章表現



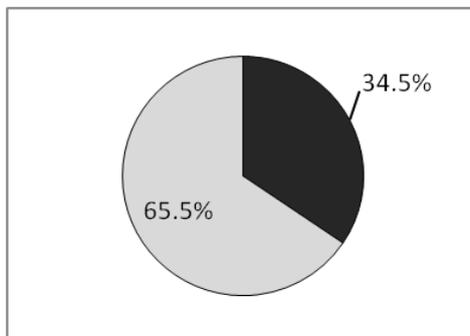
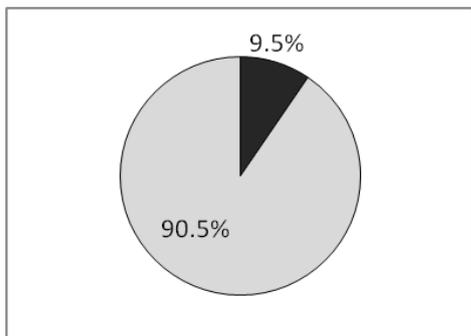
2. 数学



3. 理科



4. 英語

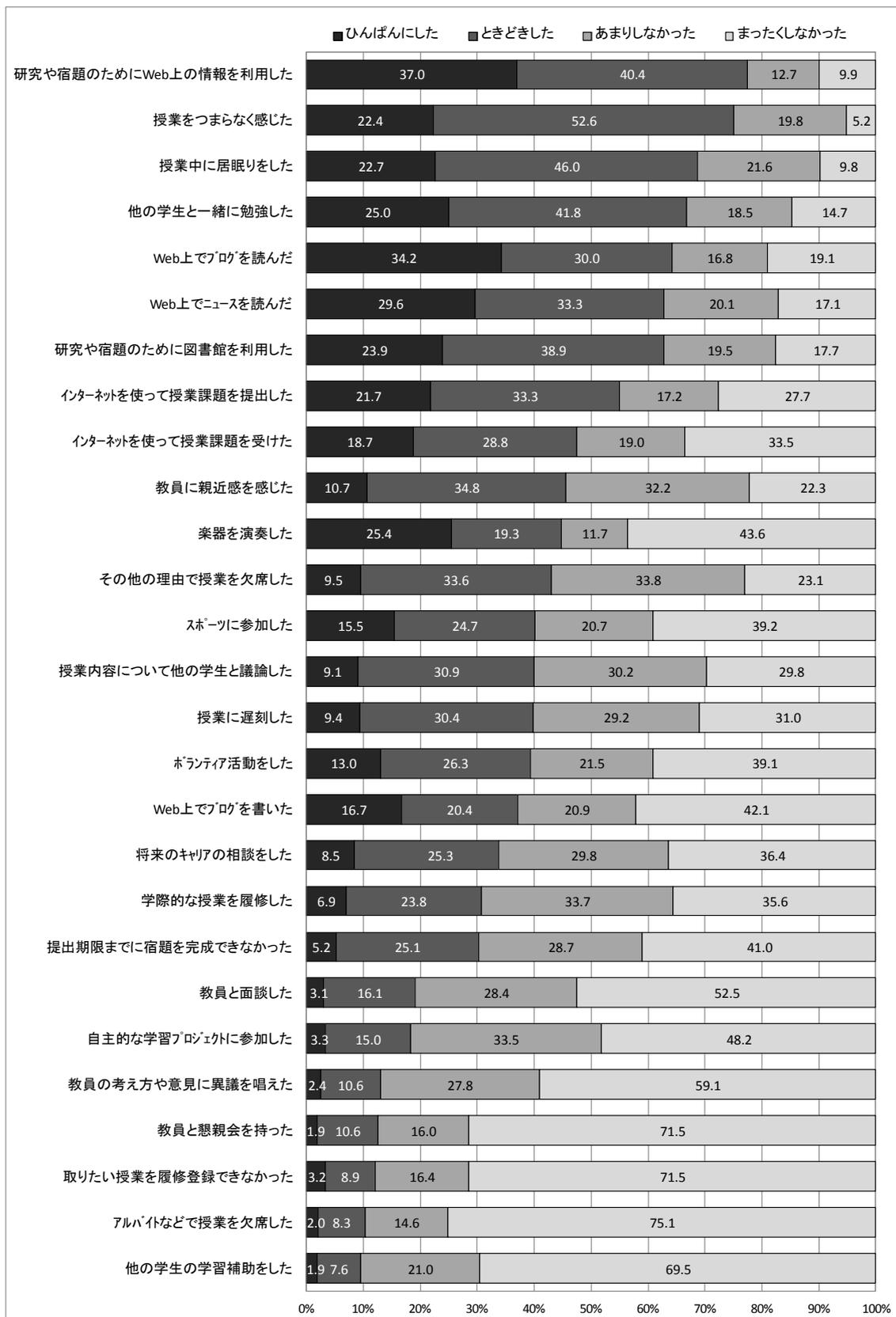


■ 特別な学習支援を受けている
 ■ 特別な学習支援は受けていない

■ 特別な学習支援を受けたい
 ■ 特別な学習支援は受けたくない

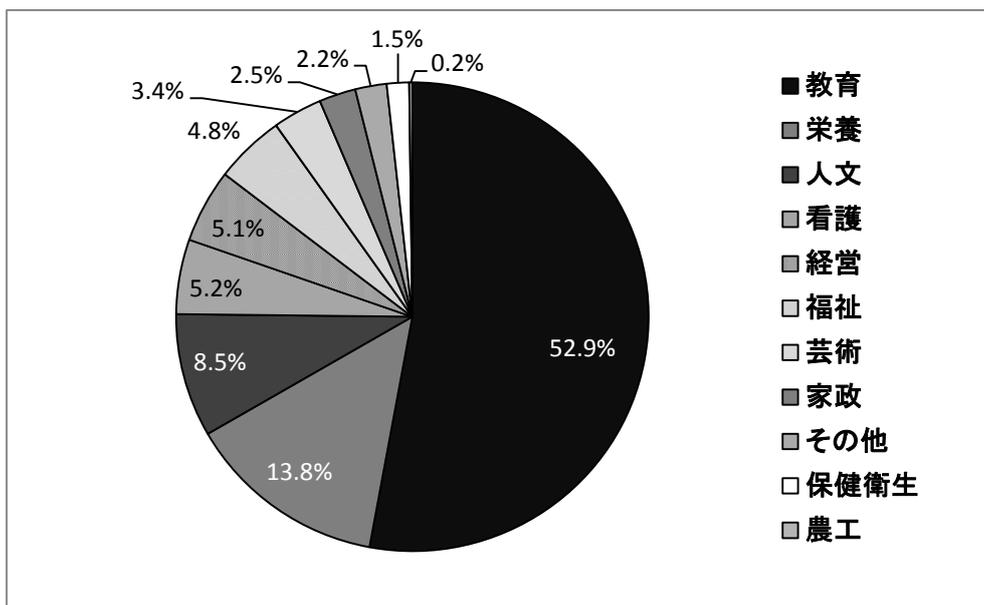
問 14 は、科目別の学習支援の現状と、今後そうした支援を希望するかを質問したものである。学習支援の現状を見ると、いずれの科目においてもわずかなパーセンテージにとどまっている。しかし、今後学習支援を受けたい者の割合は、英語では 34.5%、文章表現は 43.7%となっており、一定の学習支援のニーズが見られる。

[15] 入学してから、あなたは次の項目をどれくらいしましたか。



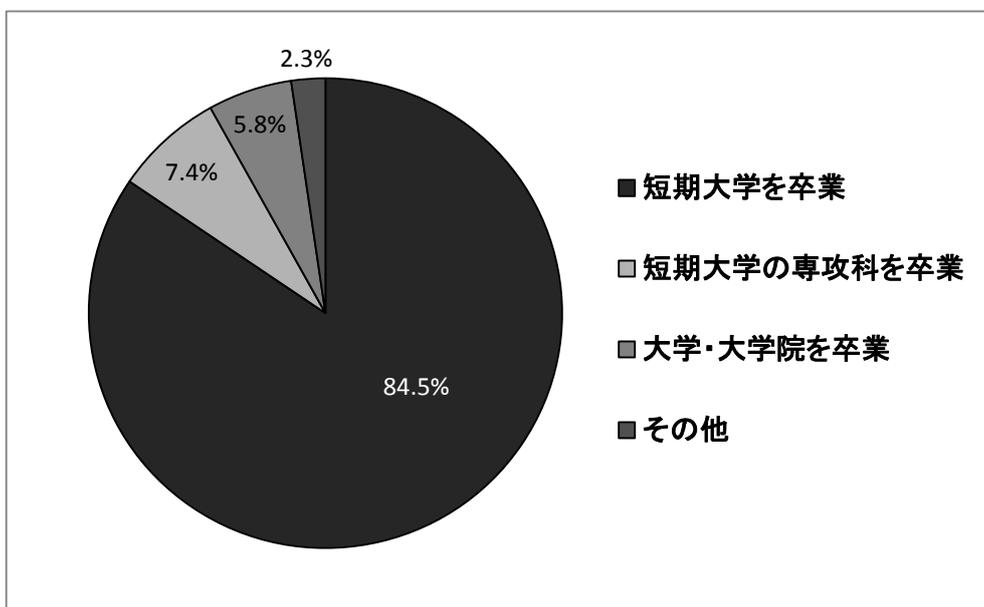
問 15 は、大学生活の様々なことがらの頻度を尋ねた項目である。授業への遅刻や欠席に関する項目は少なく、宿題の提出も概ね問題なくなされ、全体的にみると真剣に授業に臨む姿勢がみられる。しかし、「ときどきした」と「ひんぱんにした」を合わせると「授業をつまらなく感じた」は 75.0%に及び、授業の内容には一定の不満があるようである。その背景には、「教員の考え方や意見に異議を唱えた」は 13.0%に留まっているなど、必ずしもインタラクティブな授業が十分になされていないことが一つの要因であると推測される。ただし、教員に親近感をまったく感じなかった短大生は 22.3%とそれほど多くないことを考えれば、授業内容の改善や向上によって、より短大生の興味関心を引く授業を展開できるのではないだろうか。

[16] あなたが本学で専攻する専門分野はどれですか。



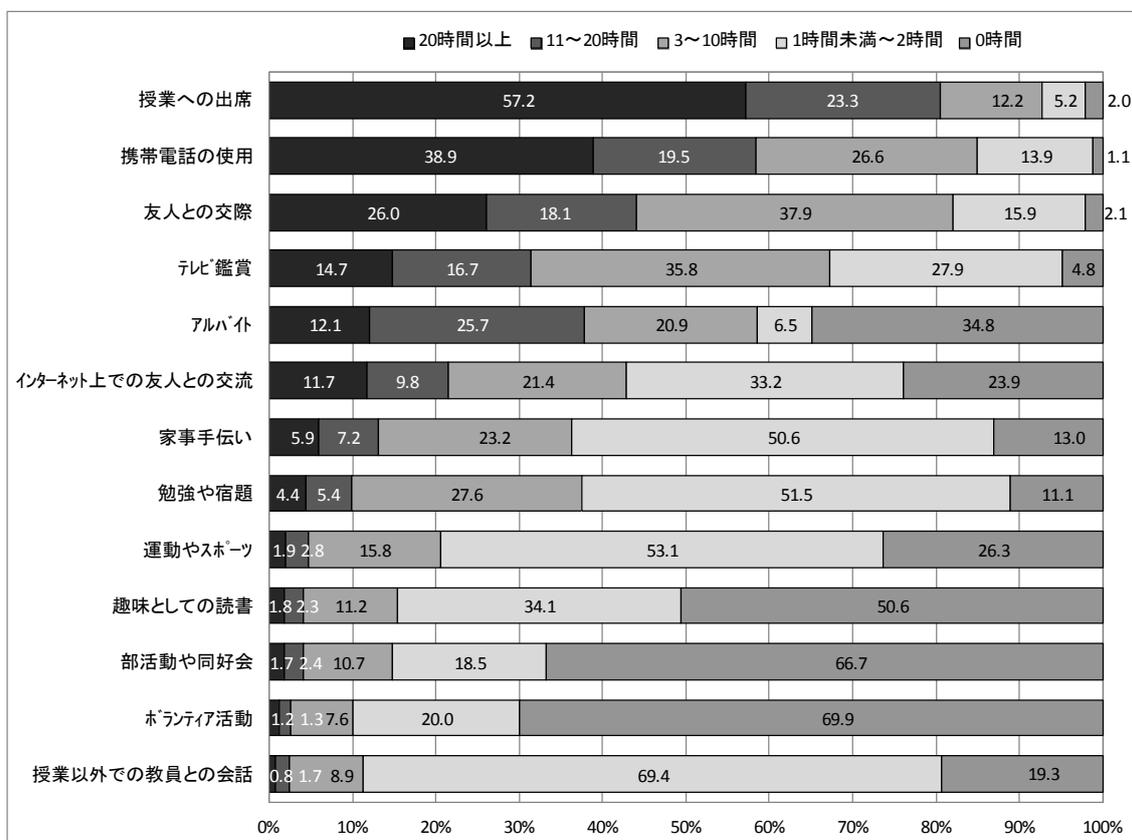
短大生の専攻分野は、「教育」が最も多く 52.9%、続いて、「栄養」が 13.8%、「人文」が 8.5%である。以降は、「看護」、「経営」、「福祉」、「芸術」、「家政」、「その他」、「保健衛生」、「農工」の順番である。

[17] あなたは将来的に、どの程度まで進学を考えていますか。



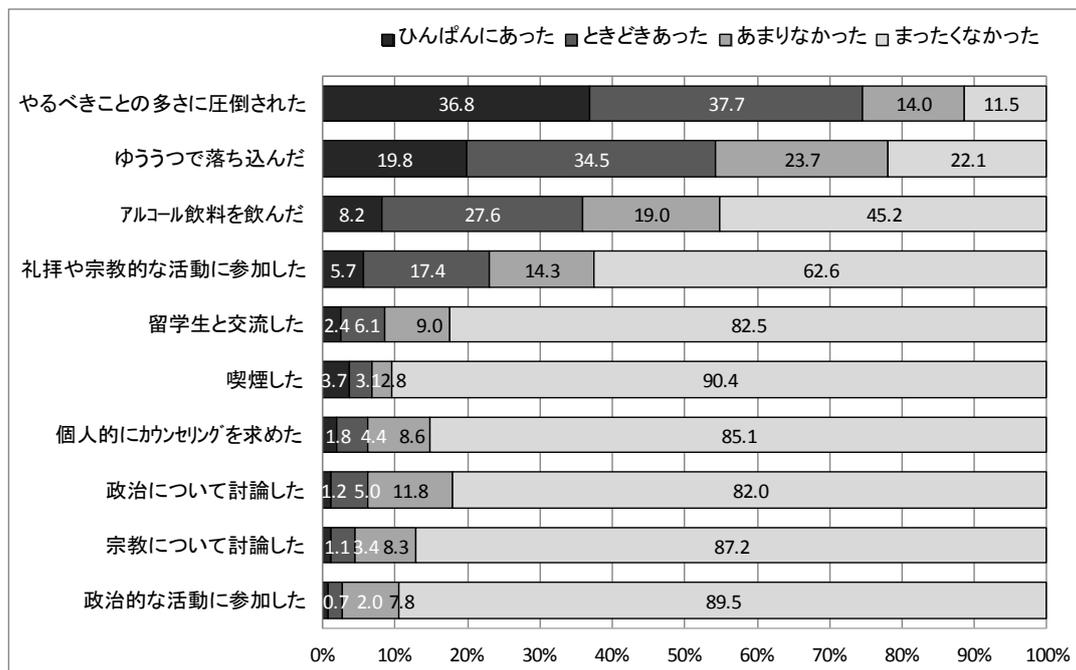
短大生の 84.5%が短期大学の卒業を目標としている。短期大学の専攻科及び大学院・大学院の卒業を考えているものは少ない。

〔18〕 あなたは今年度、次の活動に1週間あたりどれくらいの時間を費やしましたか。



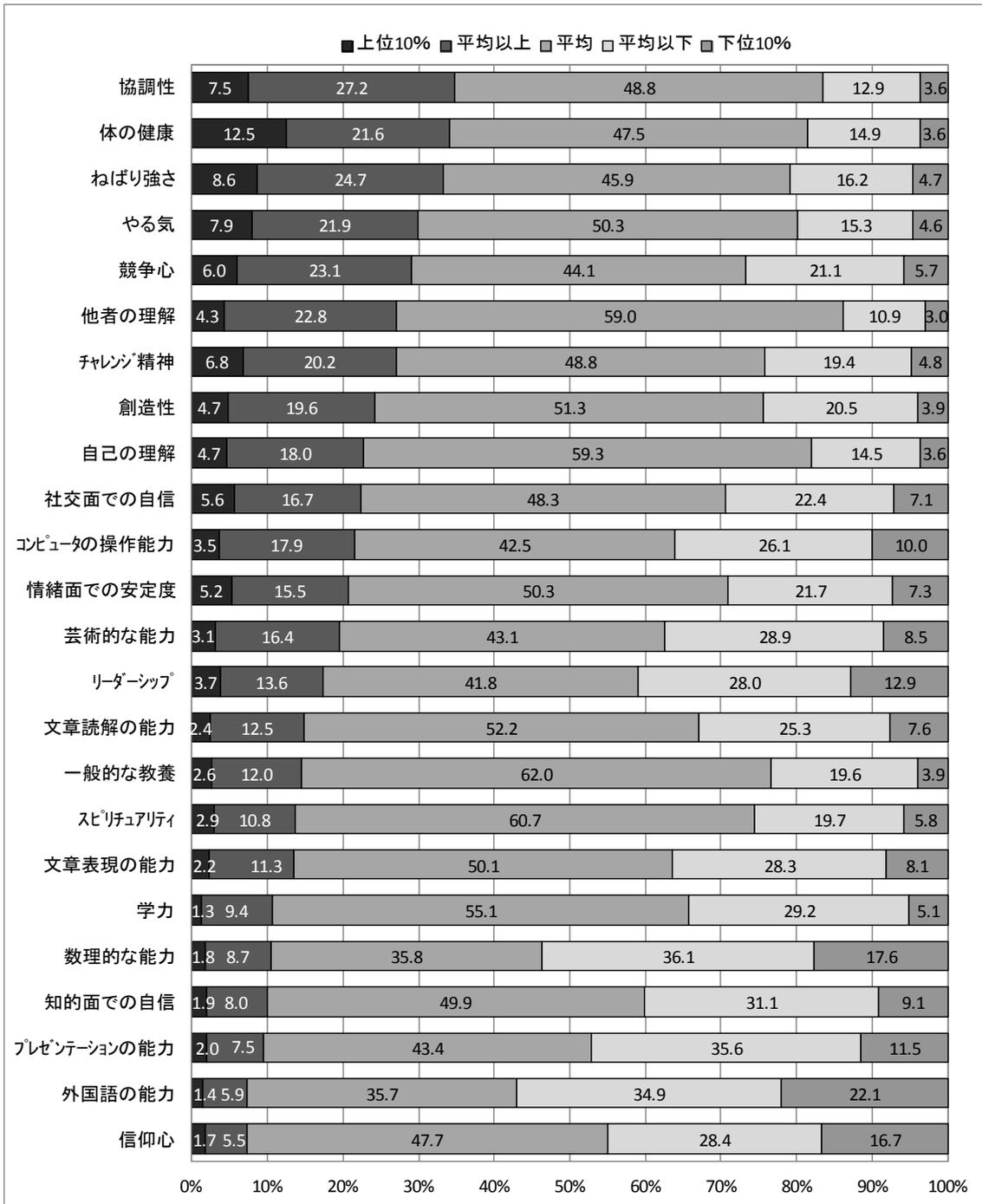
問18は、一週間のうち各項目に費やした時間を尋ねた項目である。20時間以上費やされている項目のパーセンテージが多いものは、「授業への出席」(57.2%)、「携帯電話の使用」(38.9%)、「友人との交際」(26.0%)である。0時間となっている項目のパーセンテージが多いものは、「ボランティア活動」(69.9%)、「部活動や同好会」(66.7%)、「趣味としての読書」(50.6%)である。運動やスポーツもそれほどなされておらず、大学の課外活動にはさほど時間が費やされていないことが示されている。

[19] あなたは今年度、次のことがらをどの程度経験しましたか。



問 19 は、各項目の経験の頻度を尋ねた質問である。「ひんぱんにあった」及び「ときどきあった」のパーセンテージが多い項目は、「やるべきことの多さに圧倒された」と「ゆううつで落ち込んだ」である。特に、「やるべきことの多さに圧倒された」ことが「ひんぱんにあった」と回答した短大生は 36.8%おり、これは 3 分の 1 以上の短大生が強いストレスの中で学生生活を送っていることを示している。一方、「まったくなかった」あるいは「あまりなかった」が多かった項目は、「政治的な活動に参加した」、「宗教について討論した」、「政治について討論した」、「個人的にカウンセリングを求めた」、「喫煙した」、「留学生と交流した」の 6 項目である。

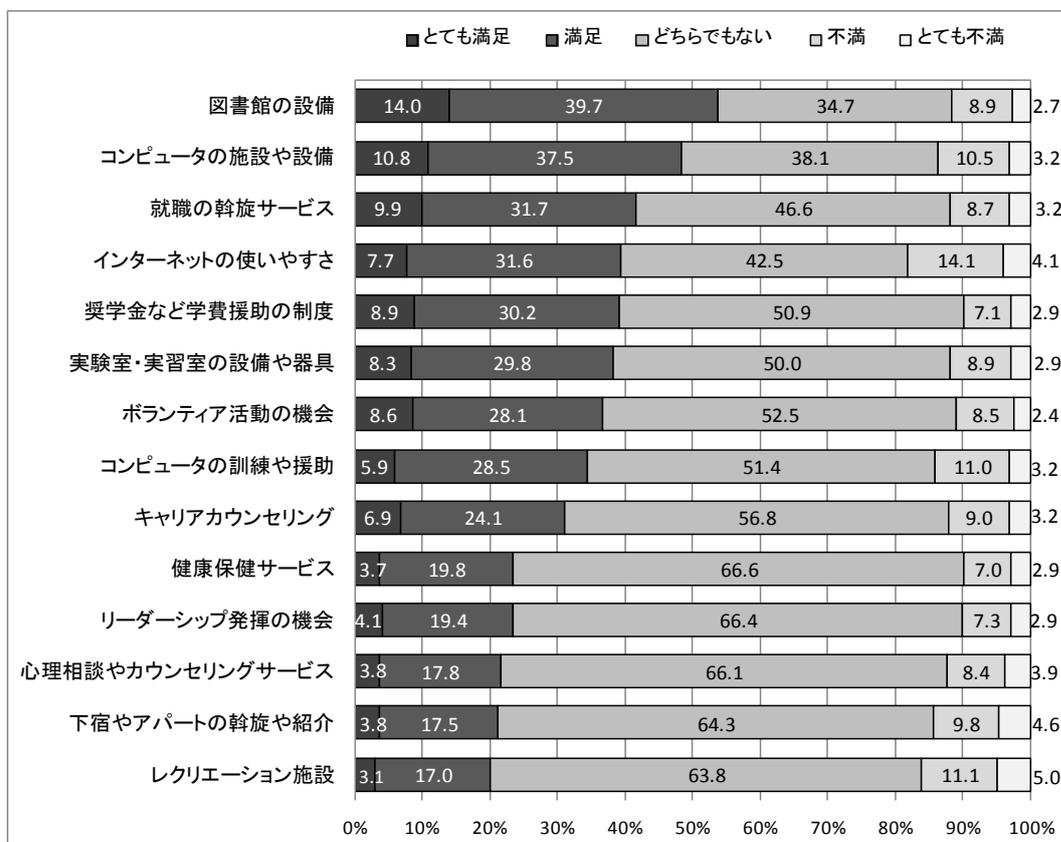
[20] あなたは、同年齢の人たちと比べて、次のことがらについてどのように自己評価しますか。



問 20 は、同年齢の短大生と比較して、各項目の自己評価の高低を尋ねた問いである。「平均以上」と「上位 10%」を合わせたパーセンテージが、「平均以下」、「下位 10%」を合わせたパーセンテージより高い（自己評価が高い）傾向にある項目を見ると、「協調性」、「体の健康」、「ねばり強さ」、「やる気」、「競争心」、「他者の理解」、「チャレンジ精神」、「創造性」、「自己の理解」が挙げられる。

一方、自己評価が低い傾向にある項目を見ると、「信仰心」、「外国語の能力」、「プレゼンテーションの能力」、「知的面での自信」、「数理的な能力」である。特に「外国語の能力」は、「下位 10%」が 22.1%、「平均以下」が 34.9%であり、「数理的な能力」については、「下位 10%」が 17.6%、「平均以下」が 36.1%である。「知的面での自信」についても低い傾向にあることから、基礎学力への不安を持つ短大生が多いように見える。

[21] あなたは、本学の次のことがらに、どの程度満足していますか。

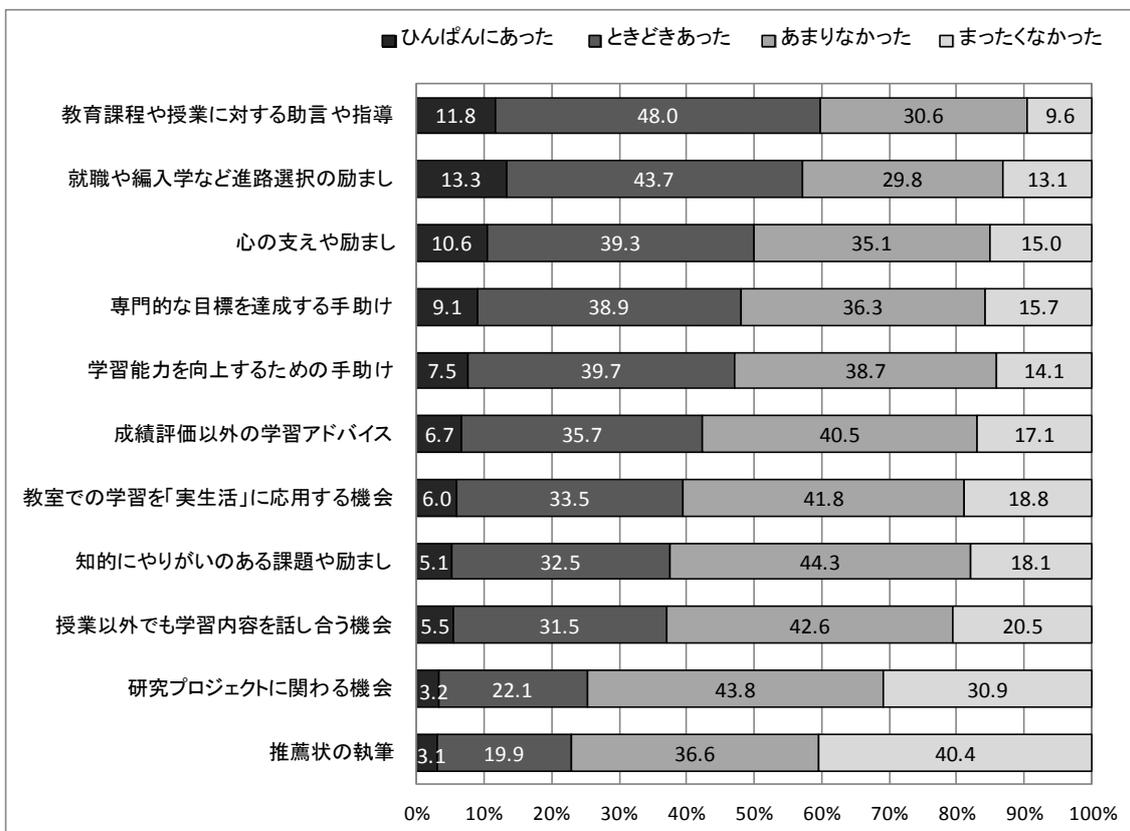


教育や学生のキャンパス・ライフを支える設備や支援制度について、短大生の満足度はどのようになっているのか。短大の設備や学生支援制度に関する満足度を尋ねた問 21 の回答分布について見てみる。なお、この設問における評価は「とても満足－満足－どちらでもない－不満－とても不満－わからない」の 6 段階評価であるが、ここでは「わからない」を欠損値として扱っている。以下、表記する項目の隣の数値は、「とても満足」と「満足」を合計した回答割合である。

短大の設備や学生支援制度について、半数前後の短大生が満足していると回答した項目は、満足度が高い順に「図書館の設備」(53.7%)と「コンピュータの設備や整備」(48.3%)、「就職の斡旋サービス」(41.6%)である。これに「インターネットの使いやすさ」(39.3%)、「奨学金など学費援助の制度」(39.1%)、「実験室・実習室の設備や器具」(38.1%)、「ボランティア活動の機会」(36.7%)、「コンピュータの訓練や援助」(34.4%)、「キャリアカウンセリング」(31.0%)が続いている。

満足度の高い項目を見ると、図書館やコンピュータの環境、実験・実習室といった授業等で日常的に使用する設備や施設に関する満足度が高くなる傾向にある。また就職斡旋サービスやキャリアカウンセリング、奨学金などの学費援助制度についても 4 割程度の短大生が満足を示していることから、一定水準のニーズに応じていると推測できる。ただ、満足と回答した学生が 4 割弱の「インターネットの使いやすさ」については満足している人もいる反面、2 割近くの短大生が不満を感じている。

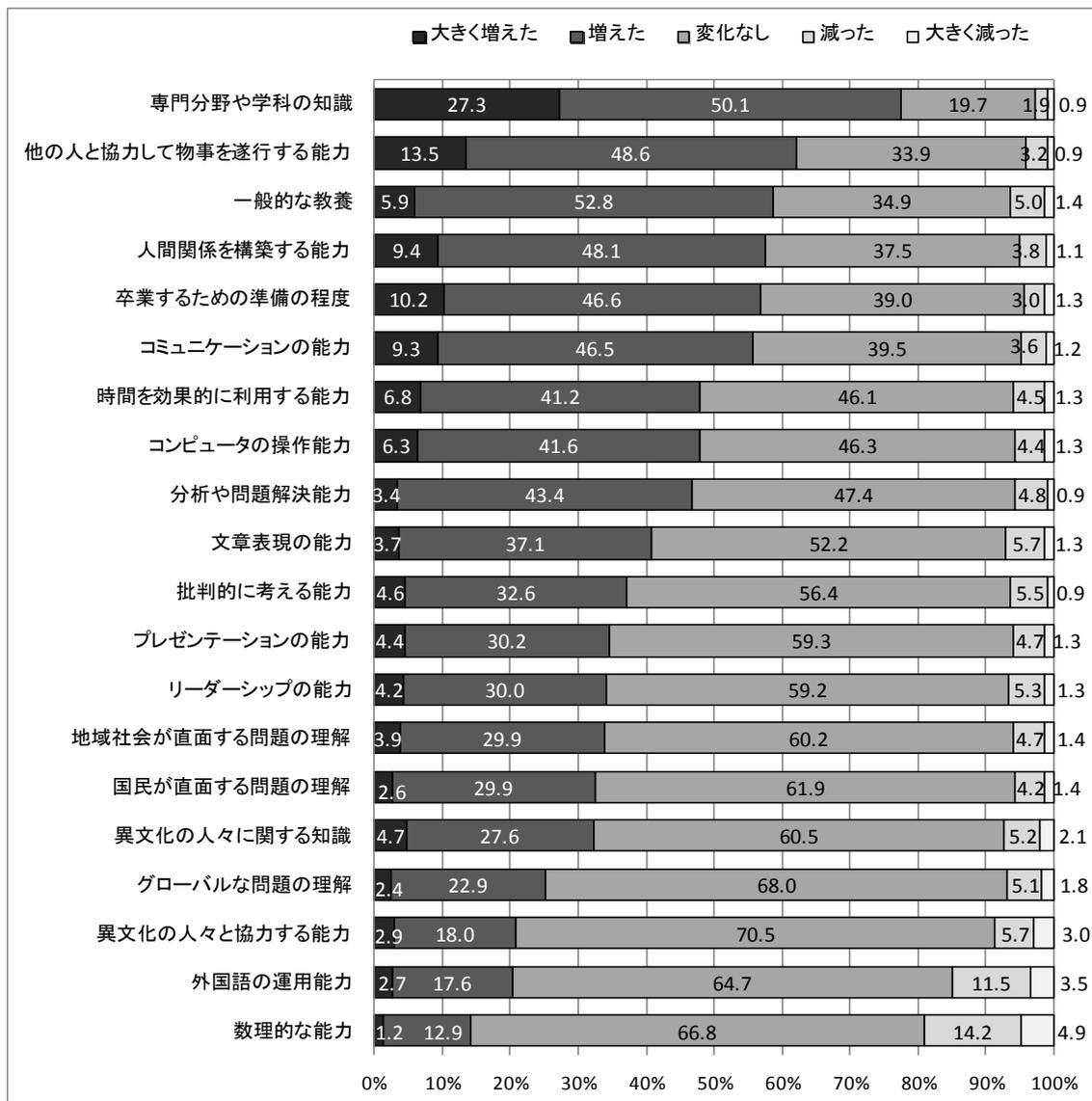
〔22〕 本学の短大教員は、あなたに次のような活動をどのくらい提供しましたか。



短大教員が短大生に対して以下に提示する活動をどれくらい提供しているかを尋ねた問22の回答分布である。表記する項目の隣の数値は、「ひんぱんにあった」と「ときどきあった」の回答割合の合計である。

短大教員から提供される活動について、半数以上の短大生が「ひんぱんにあった」と「ときどきあった」と答えたものは「教育課程や授業に対する助言や指導」(59.8%)や「就職や編入学など進路選択の励まし」(57.0%)といった活動である。この他に教員からの関わりが多かったものとして、「心の支えや励まし」(49.9%)、「専門的な目標を達成する手助け」(48.0%)、「学習能力を向上するための手助け」(47.2%)、「成績評価以外の学習アドバイス」(42.4%)といった項目があり、4割以上の短大生がこの種の関与が「あった」と回答している。上記に挙げた項目の特徴として、教員から学習活動を支援する関与を多く受けており、この結果を見る限り、短大教員は短大生に対して授業に関するにとどまらず、進路や精神的なケアなど多岐にわたって積極的な関与を行っていることがうかがえる。

〔23〕 入学した時点と比べて、あなたの能力や知識はどのように変化しましたか。



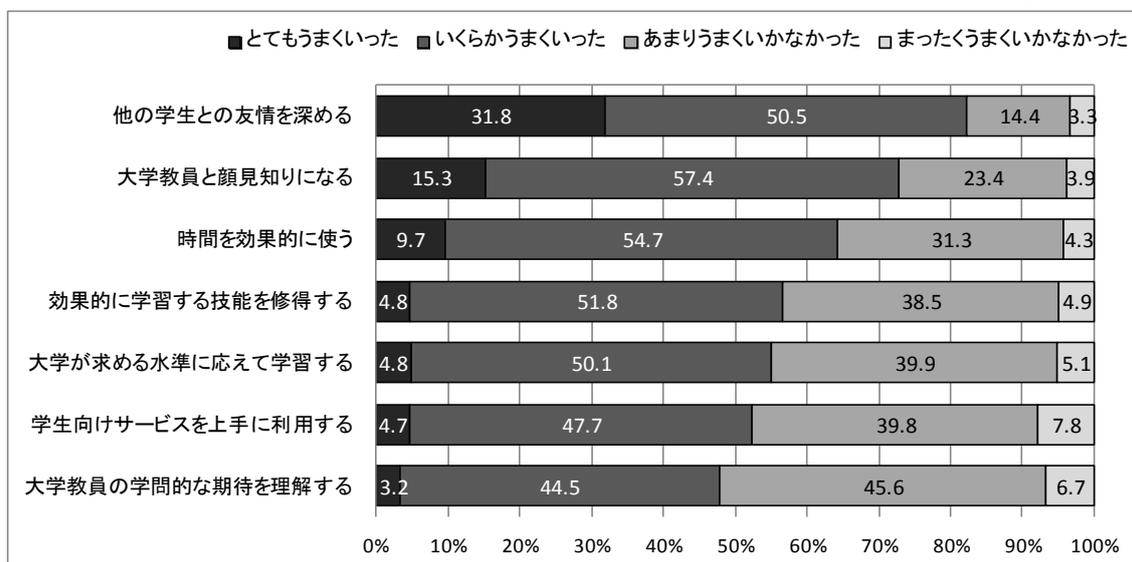
問 23 では短大入学後の学生の知識・技能の獲得についてその変化状況を尋ねている。以下に提示する項目内容の横の数値は「大きく増えた」と「増えた」といった増加割合の合計である。

能力が増えたと答えた割合が最も高いのは「専門分野や学科の知識」(77.4%)であることから、多くの短大生が自身の進学した学部・学科の専門教育から知識や技能の習得ができてきている。ただ、「一般的な教養」も 58.7%となっていることから、教養教育についても短大が力を注いでいることがうかがえる。これら以外に半数以上の短大生が増えたと実感しているものは「他の人と協力して物事を遂行する能力」(62.1%)、「人間関係を構築する能力」(57.5%)、「卒業するための準備の程度」(56.8%)、「コミュニケーションの能力」(55.8%)である。ここで注目すべきは、対人関係を構築する際に必要となる能力(協調性、人間関係、コミュニケーション)が高い割合で獲得されていることである。4割以上の短大生が増

加したとしている能力は、「時間を効果的に利用する能力」(48.0%)、「コンピュータの操作能力」(47.9%)、「分析や問題解決能力」(46.8%)、「文章表現の能力」(40.8%)である。

一方で、3割台しか増えたと答えていない項目は「批判的に考える能力」(37.2%)、「プレゼンテーションの能力」(34.6%)、「リーダーシップの能力」(34.2%)、「地域社会が直面する問題の理解」(33.8%)、「国民が直面する問題の理解」(32.5%)、「異文化の人々に関する知識」(32.3%)となっている。増加割合が3割以下の項目は「グローバルな問題の理解」(25.3%)、「異文化の人々と協力する能力」(20.9%)、「外国語の運用能力」(20.3%)、「数理的な能力」(14.1%)の4項目である。特に「外国語の運用能力」と「数理的な能力」は他とは異なり「減った」と「大きく減った」を合わせた「減少した」の回答率が15%以上もいる。

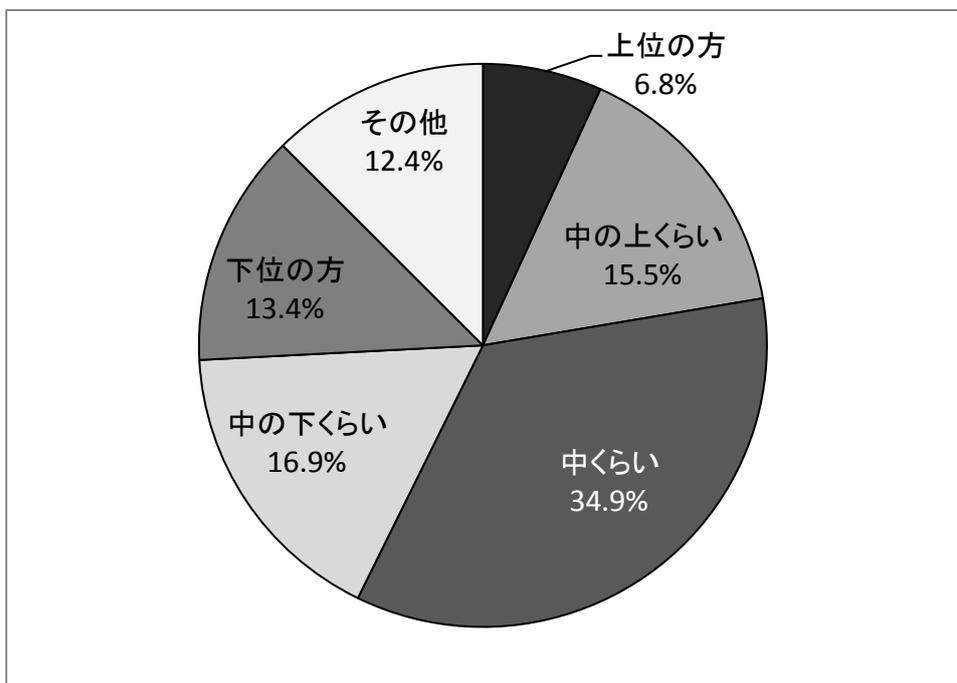
[24] 本学に入学してから、あなたは次の項目にどのくらいうまくいきましたか。



問24では、短大入学後に人間関係や学習環境などにうまく適応できたかどうかを尋ねている。ここでも「とてもうまくいった」と「いくらかうまくいった」の割合を足したものを項目の隣に提示する。

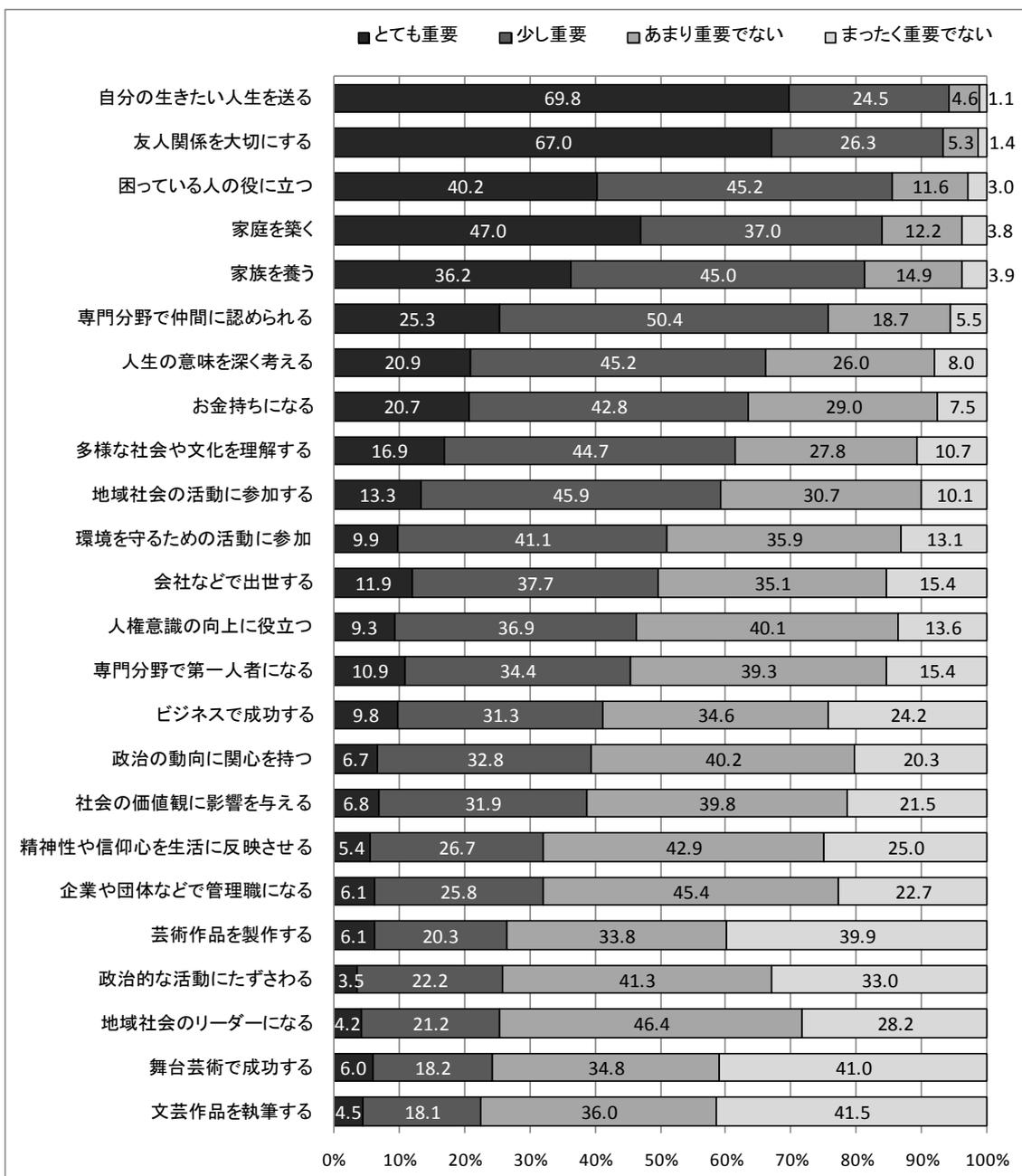
全体の回答傾向としては「うまくいった」といった肯定的な回答をした短大生が多い。このうち特に割合が高いのが「他の学生との友情を深める」(82.3%)と「大学教員と顔見知りになる」(72.7%)の2つの項目であり、学生生活において友人や教員と良好な人間関係を築いているとかがえる。これらに続いて「時間を効果的に使う」(64.4%)や「効果的に学習する技能を修得する」(56.6%)、「大学が求める水準に応じて学習する」(54.9%)、「学生向けサービスを上手に利用する」(52.4%)となっており、半数を超える短大生が学生生活にうまく適応できていると回答している。「大学教員の学問的な期待を理解する」(47.7%)は他の項目より若干肯定回答の割合が低い、4割以上の短大生は授業等での教員の期待について概ね理解しているとわかる。

[25] あなたの本学での成績はどれくらいですか。



回答時の成績の自己評価について問 25 で聞いている。これを見ると、最も回答が多いのは「中くらい」の 34.9%であり、成績中位層が全体の 3 分の 1 を占めている。また「上位の方 (6.8%)」や「中の上くらい (15.5%)」といった成績上位層は 5 人に 1 人程度いる。「中の下くらい (16.9%)」と「下位の方 (13.4%)」の成績下位層は全体の約 3 割である。

[26] あなたの人生にとって、次のことがらはどの程度重要ですか。

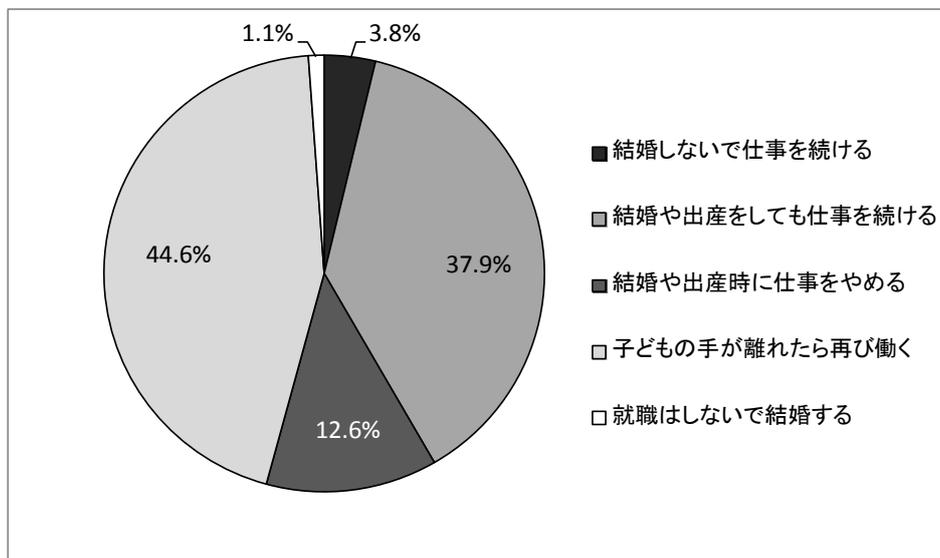


問 26 では、短大生が人生を送るうえで重要だと思うものは何かについて、短大生の持つ価値観について尋ねている。なお、項目の隣の数字は「とても重要」と「少し重要」を足した割合である。

短大生が重要だと考えている項目についてみると、重要度が高い順に「自分の生きたい人生を送る」(94.3%)、「友人関係を大切にする」(93.3%)であり、ほぼ全ての短大生がこの2つの項目に関して重要だとしている。この他に「困っている人の役に立つ」(85.4%)、

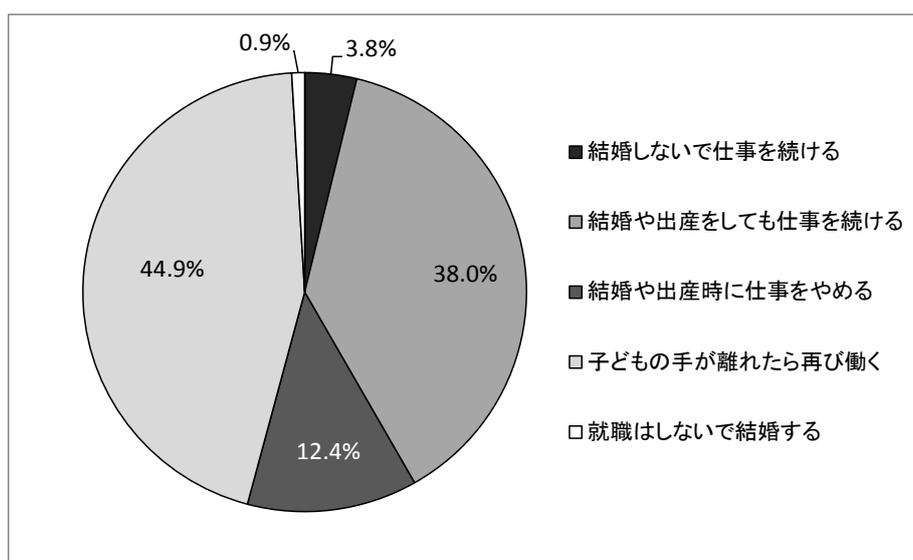
「家庭を築く」(84.0%)、「家族を養う」(81.2%)についても約8割の短大生が重要だとみなしている。上記以外に半数以上の人が必要だと思っている項目は、「専門分野で仲間認められる」(75.7%)、「人生の意味を深く考える」(66.1%)、「お金持ちになる」(63.5%)、「多様な社会や文化を理解する」(61.6%)、「地域社会の活動に参加する」(59.2%)となっている。これら重要度が高い項目の特徴としては、自分の人生の意義を考え、自己決定を下すことを重視し、また家族や友人、仲間を中心に良好な関係を築きたいという願望が垣間見える。それと同時に自分以外の他者に対してや地域社会など何らかの貢献をしたいという意識を持っていることがわかる。それと同時に「お金持ちになる」といった経済的な地位の上昇も達成したいとも考えている。

[27-1] 次のうち、女性の生き方としてあなたの考えに最も近いものはどれですか。(全体)



[27-2] 次のうち、女性の生き方としてあなたの考えに最も近いものはどれですか。

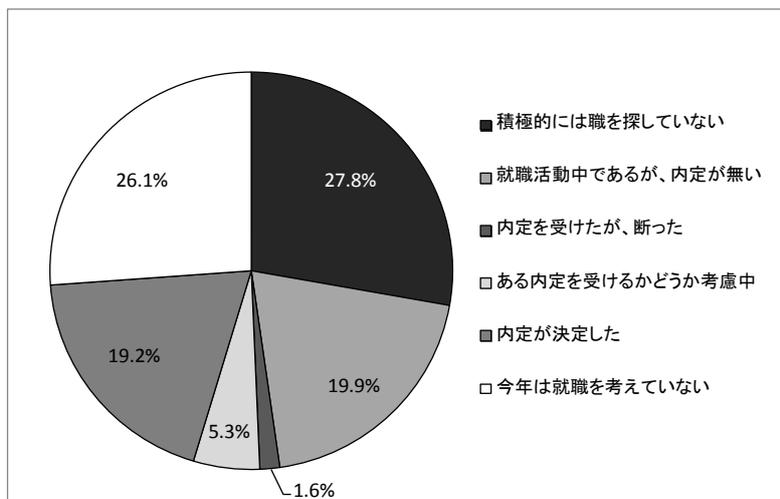
(女子学生のみ)



今後社会へと進む短大生は一体どのようなキャリア・イメージを持っているのか。それについて尋ねた問 27 の回答分布は次のようになっている。なお、[27-2] のグラフでは 7102 名の全回答のうち、設問内容から男子学生 401 名と無回答などを除いた女子学生 6503 名のみで表したグラフである。[27-2] のグラフを参照いただきたい。

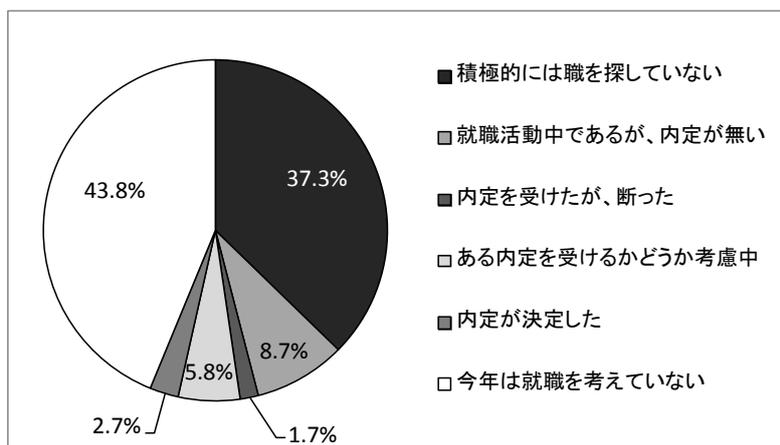
女子学生をみの回答分布は、「結婚しないで仕事を続ける」(3.8%)、「結婚や出産をしても仕事を続ける」(38.0%)、「結婚や出産時に仕事をやめる」(12.4%)、「子どもの手が離れたら再び働く」(44.9%)、「就職はしないで結婚する」(0.9%)となっている。これらの回答から、結婚や出産の有無、一時離職したとしても何らかの形で仕事を続けたいと思っている女子学生がほとんどであることがわかる。

[28-1] 卒業後に就職を予定している場合、あなたの現在の状況を教えてください。(全体)



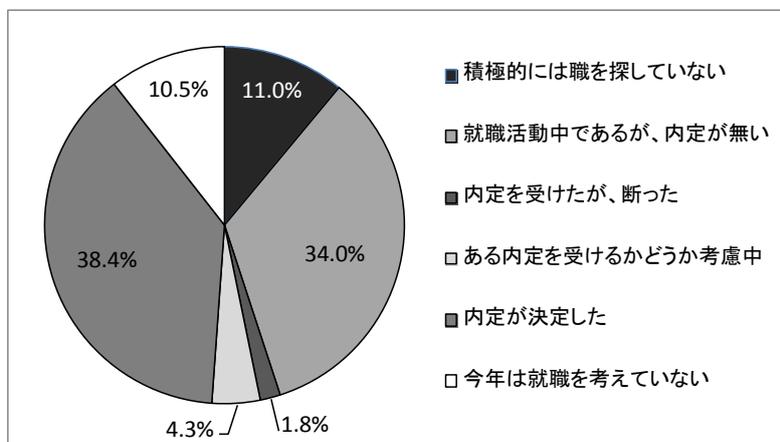
[28-2] 卒業後に就職を予定している場合、あなたの現在の状況を教えてください。

(1年生のみ)



[28-3] 卒業後に就職を予定している場合、あなたの現在の状況を教えてください。

(2年生以上)

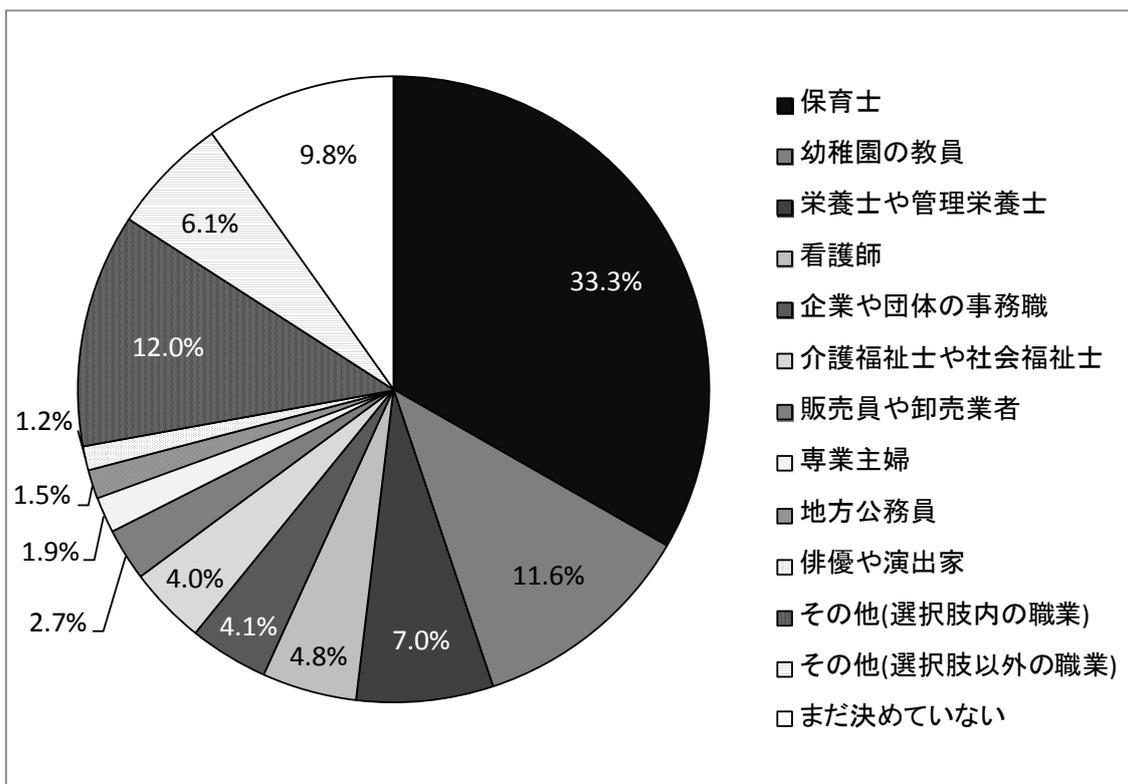


問 28 では現在就職活動をしている（した）短大生を対象に、現在の活動状況を尋ねている。

〔28-1〕のグラフでは回答者全体の結果を示している。これを見ると「積極的には職を探していない」（27.8%）、「就職活動中であるが、内定が無い」（19.9%）、「内定を受けたが、断った」（1.6%）、「ある内定を受けるかどうか考慮中」（5.3%）、「内定が決定した」（19.2%）、「今年は就職を考えていない」（26.1%）となっている。これらより、回答時点で何らかの内定を受けた経験がある短大生は回答全体の約 25%であることがわかる。その一方で「積極的には職を探していない」と「今年は就職を考えていない」を合わせると回答全体の 53.9%の割合となる。〔28-1〕のグラフからは、回答時点で就職活動を一切行っていない短大生が 5 割以上いることが読み取れる。ただし〔28-1〕のグラフについては、専門分野によって就職活動の時期が異なること、また就職活動は主に「2 年生以上」であり 1 年生が活動自体行っていないことが考えられる。

念のため、学年別の傾向を見てみると、1 年生のみの結果を示した〔28-2〕のグラフから、「積極的には職を探していない」が 37.3%、「今年は就職を考えていない」が 43.8%であることから、合計 81.1%の短大生が就職活動を行っていないことが示されている。「就職活動中であるが、内定が無い」（8.7%）や「内定を受けたが、断った」（1.7%）、「ある内定を受けるかどうか考慮中」（5.8%）、「内定が決定した」（2.7%）であり、合計で 18.9%の 1 年生が就職活動を積極的に行なっていることになる。一方で 2 年生以上のみで集計結果を示した〔28-3〕のグラフでは、「積極的には職を探していない」（10.5%）、「今年は就職を考えていない」（11.0%）となっており、就職活動していない 2 年生以上の短大生は 21.5%であることが示されている。また、内定の有無に関わらず何らかの就職活動をしている（就職活動をした）2 年生以上の短大生の割合は 78.5%となっている。その内訳は「就職活動中であるが、内定が無い」（34.0%）、「内定を受けたが、断った」（1.8%）、「ある内定を受けるかどうか考慮中」（4.3%）、「内定が決定した」（38.4%）である。以上より現在就職活動をしていない短大生の多くが 1 年生であり、就職活動をしている、また内定を受けた多くの短大生が 2 年生以上であることがわかる。

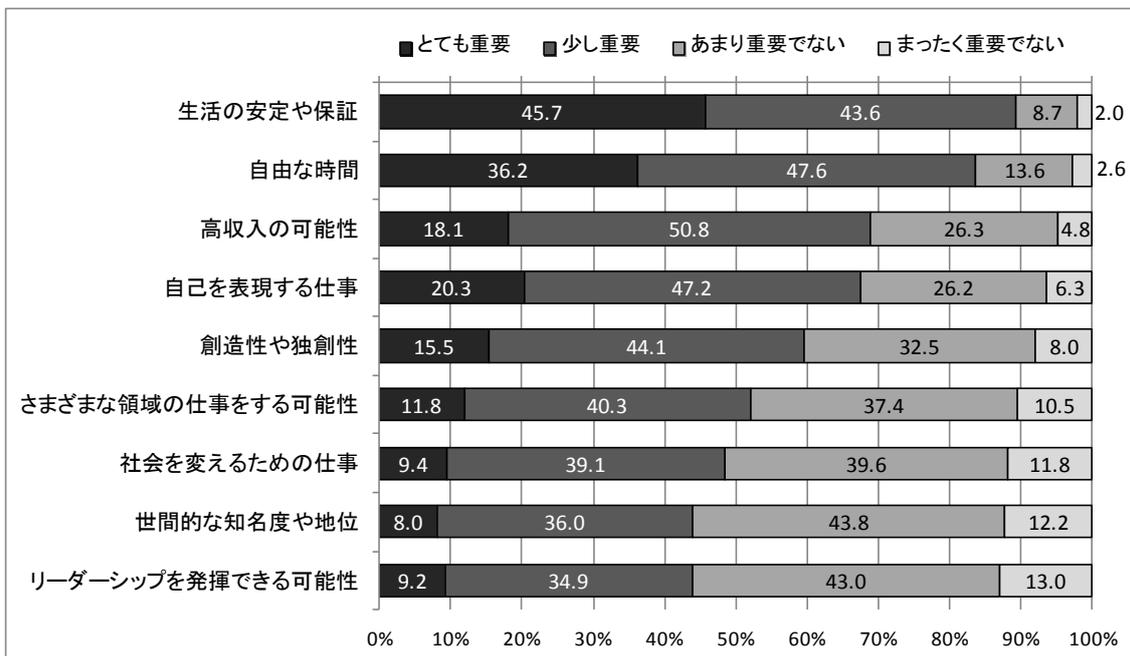
〔29〕 あなたは将来、どのような職業やキャリアに進みたいですか。



問 29 は将来どのような職業やキャリアに進みたいかを尋ねた設問である。この設問では 55 の職業のうち 1 つを選択するように求めているが、ここでは特に回答割合が高い職業のうち上位 10 位までを整理し説明する。なお、無回答者 395 人を除いた 6707 名が有効回答である。

回答時点で何らかの職業・キャリアを志望している短大生は全体の 90.2%であり、キャリア未決定の短大生は 9.8%のみである。次に志望度が高い上位 10 位までの職業は、「保育士」(33.3%)、「幼稚園の教員」(11.6%)、「栄養士や管理栄養士」(7.0%)、「看護師」(4.8%)、「企業や団体の事務職」(4.1%)、「介護福祉士や社会福祉士」(4.0%)、「販売員や卸売業者」(2.7%)、「専業主婦」(1.9%)、「地方公務員」(1.5%)、「俳優や演出家」(1.2%) となっている。これらから「保育士」や「幼稚園の教員」といった就学前の保育関連施設で働く職業に全体の 4 割の短大生が志望している。

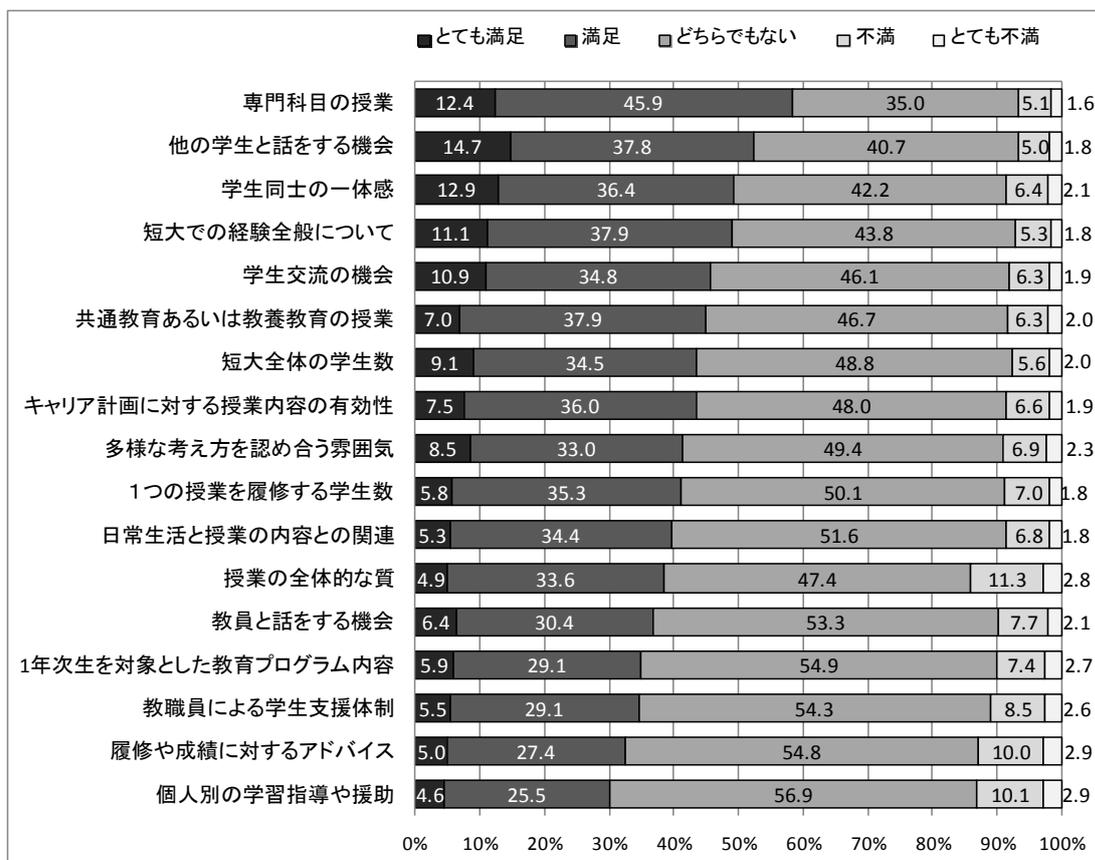
〔30〕 短大卒業後のキャリアを考えると、次のことがらほどの程度重要ですか。



問 30 ではキャリアを選択する際に、どのようなことを重視するのかを尋ねている。なお、項目の隣の数字は「とても重要」と「少し重要」の合計の割合である。

これを見ると、キャリアを考えるにあたって大半の短大生が重要だとみなしている項目は、「生活の安定や保証」(89.3%)、「自由な時間」(83.8%)、「高収入の可能性」(68.9%)、である。この他に「自己を表現する仕事」(67.5%)、「創造性や独創性」(59.6%)と「さまざまな領域の仕事をする可能性」(52.1%)が続く。上記の回答傾向から、生活の基盤となる収入が十分に保障され、自己実現可能な仕事ができ、余暇などの自由な時間が確保できることをキャリア選択の際に特に重視している。また、自身のキャリアに独自の感性や発想を求める一方で、様々な仕事をこなすことを求める短大生が多いことがわかる。

〔31〕 あなたは、本学にどれくらい満足していますか。

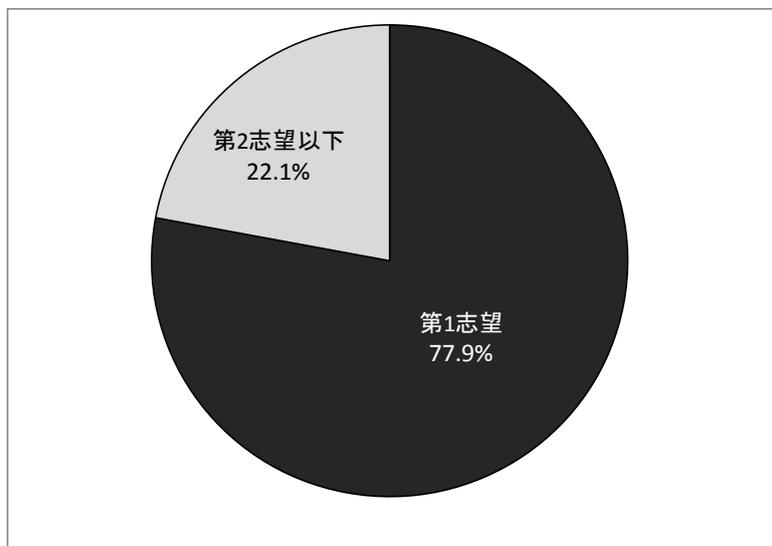


短大の教育全般に対して短大生はどの程度満足しているのかについて、問 31 では 17 項目から聞いている。なお問 31 についても問 21 と同様に、各設問項目は「とても満足—満足—どちらでもない—不満—とても不満—わからない」の 6 段階評価で構成されているが、ここでは「わからない」は欠損値として扱い省略している。また各項目名の隣にある数字は「とても満足」と「満足」と回答した割合の合計値である。

回答分布を見ると、半数以上の短大生が満足感を得ている項目は「専門科目の授業」(58.3%)と「他の学生と話す機会」(52.5%)の 2 項目である。またこれらに続いて、「学生同士の一体感」(49.3%)、「短大での経験全般について」(49.0%)、「学生交流の機会」(45.7%)、「共通教育あるいは教養教育の授業」(44.9%)、「短大全体の学生数」(43.6%)、「キャリア計画に対する授業内容の有効性」(43.5%)、「多様な考え方を認め合う雰囲気」(41.5%)、「1つの授業を履修する学生数」(41.1%)であり、これら 8 項目で 40%以上の短大生が満足を示している。

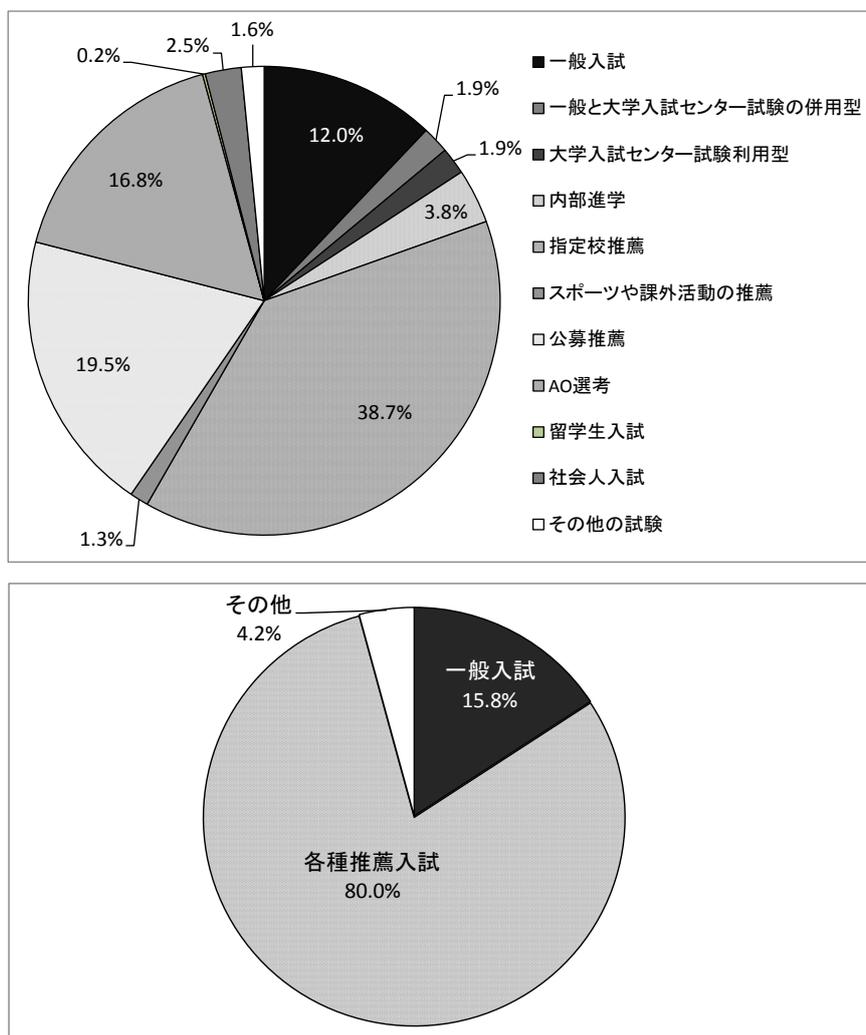
ただ、満足度が 3 割台の項目には「授業の全体的な質」(38.5%)、「教員と話す機会」(36.8%)、「教職員による学生支援体制」(34.6%)、「履修や成績に対するアドバイス」(32.4%)などがある。学習に関する支援や学生支援、教員と接する機会などを増やす施策を打つことでこれらの満足度は上がり、問 24 の短大生の適応なども促進されると予想される。

〔32〕 あなたが志望した大学や短大の中で、本学は何番目でしたか。



現在進学している短大の志望順位について問 32 で尋ねている。「第 1 志望」であると答えた短大生は全体の 77.9%、「第 2 志望以下」は 22.1%となっている。このことから、4 人中 3 人が現在所属している短大を志望して進学している。

[33] あなたはどのような入学試験を受けて、本学に入学しましたか。



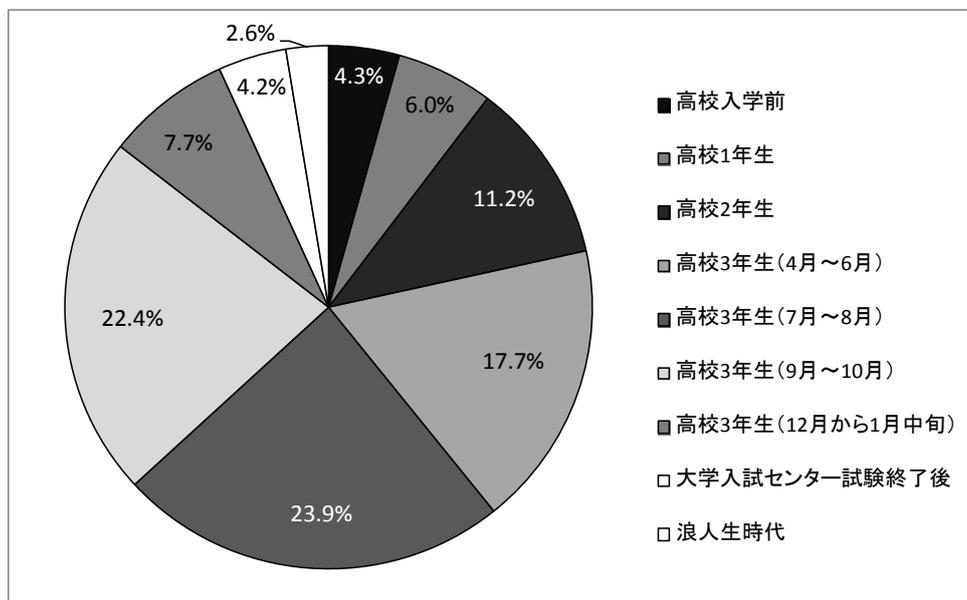
問 32 から多くの短大生が第 1 志望の短大に進学していることがわかったが、一体どのような入試を経て進学してきたのだろうか。問 33 は入試方式について聞いている。

これを見ると、最も多いのは「指定校推薦」(38.7%) であり、約 4 割の短大生がこの方式によって進学している。これに「公募推薦」(19.5%) や「AO 選考」(16.8%)、「一般入試」(12.0%) が続いている。これら 4 つの入試方式によって約 9 割の短大生が入学している。

次に 11 の入試方式を 3 つに分類し直してその割合を見ていく。この分類は、1 つ目は「一般入試」、「一般と大学入試センター試験の併用型」、「大学入試センター試験利用型」をひとくくりとする学力入試を伴った「一般入試」区分である。2 つ目は「各種推薦入試」であり、これは「内部進学」、「指定校推薦」、「スポーツや課外活動の推薦」、「公募推薦」、「AO 選考」の 5 つの入試方式をまとめている。そして 3 つ目は「その他」の入試であり、「留学生入試」と「社会人入試」、「その他の試験」を合わせている。この 3 区分によると学力選抜試験を伴った「一般入試」による進学者は全体の 15.8% であり、「各種推薦入試」の進学

者が 80.0%を占めている。このことより、5人中4人が一般学力選抜によらない入試方式によって短大に進学していることがわかる。

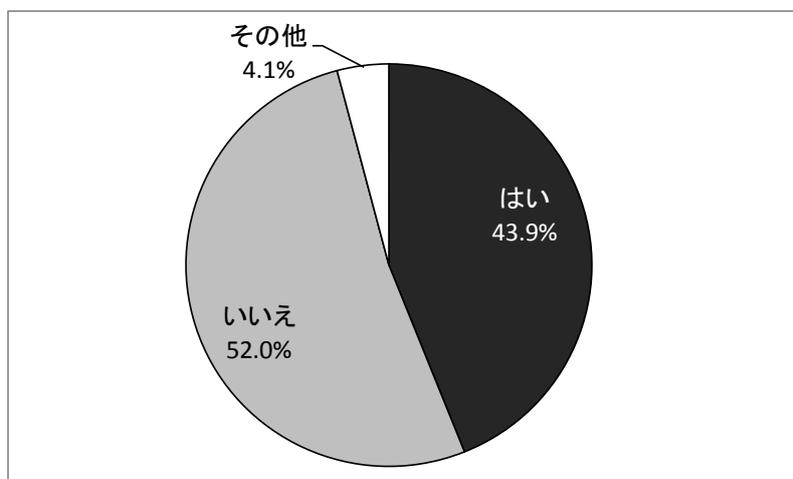
〔34〕 あなたが本学の受験を決めたのはいつですか。



問 34 では短大生が現在の短大への進学をいつ頃決めたかについて尋ねている。まず進学決定時期の回答割合が最も高いのは「高校3年生(7月～8月)」の23.9%であり、これに「高校3年生(9月～10月)」の22.4%が続く。また「高校3年生(4月～6月)」も17.7%である。これらから、高校3年生の始業の4月から夏休みの終わる8月までに受験を決定した短大生が、回答者全体の41.6%を占める。高校入学前(4.3%)、高校1年生(6.0%)、高校2年生(11.2%)より、高校3年生以前に進学を決めている層も2割程度いる。

高校3年生の二学期始業までに志望校を決定していた短大生が6割いる背景の一つに、先の設問(問33)から各種推薦入試が進学者全体の大半を占めていることが少なからず関係していることが考えられる。推薦入試は一般入試に比べて開始時期が早いため、余裕をもって試験対策等の準備をすることが考えられる。そのため、高校3年生の1学期前後には志望短大の受験を決定するケースが多くなることが予想される。

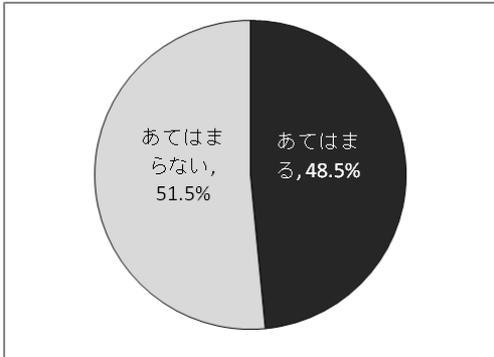
[35-1] あなたのご家族の中に、大学や短大を卒業した人いらっしゃいますか。



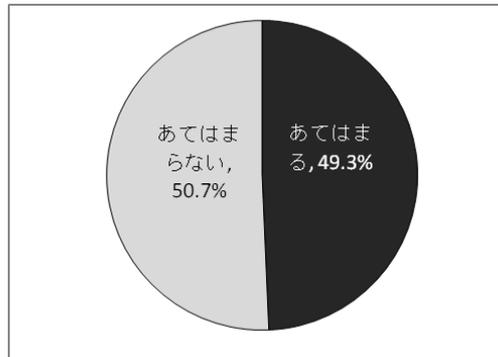
問 35 は短大生の家族の内に大学や短大といった高等教育機関卒業者がいるかどうかを尋ねている。これを見ると、家族に高等教育機関卒業者がいると回答した短大生は 43.9%で、誰もいないと回答した短大生は 52.0%となっている。

〔35-2〕 ご家族のうちで大学や短大を卒業した方は、次のうちどなたですか。

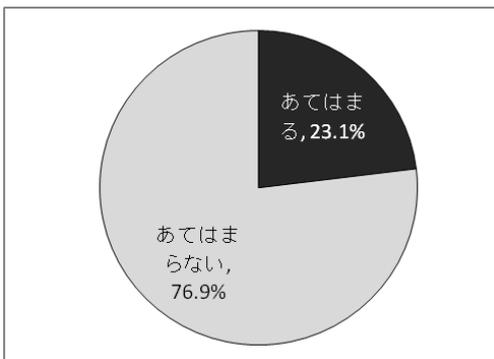
・ 父親



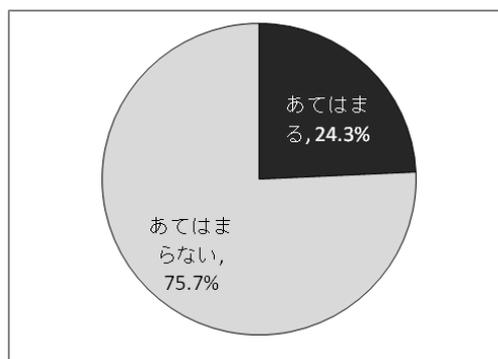
・ 母親



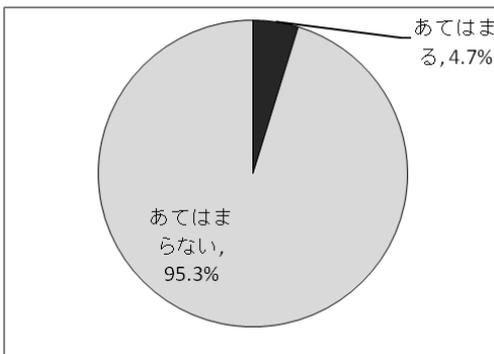
・ 兄弟



・ 姉妹

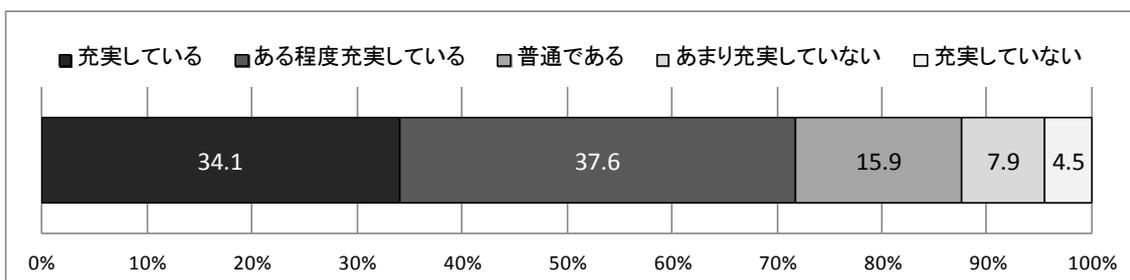


・ その他



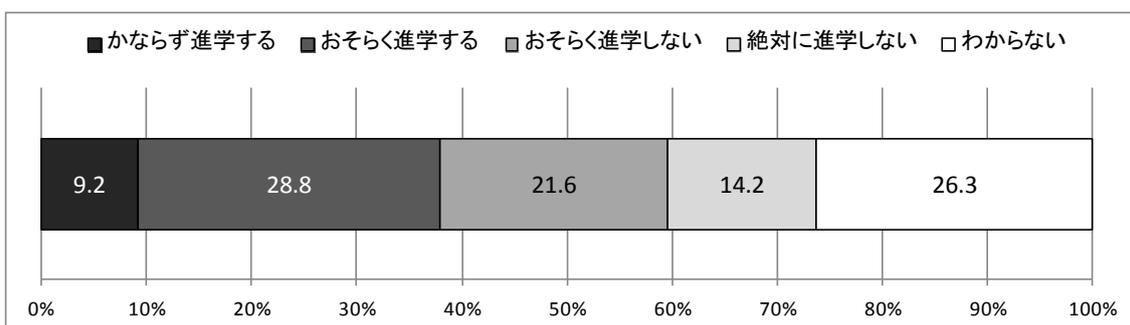
次に問 35-1 で家族内に高等教育機関卒業者がいると答えた短大生（該当者 2999 名）に対して、家族の内の誰が卒業しているのかどうか聞いたところ、次のような回答状況になった。なお、この設問は複数回答可としている。これを見ると、「父親」が 48.5%、「母親」が 49.3%となっている。「兄弟」は 23.1%、「姉妹」は 24.3%である。両親の半数が大学及び短大を卒業しており、子どもに対しても自分たちと同じように高等教育機関に進学させていると考えられる。

[36] あなたの学生生活は充実していますか。



短大生の学生生活全般に対する充実感について問 36 で尋ねた結果、次のような回答が得られた。これを見ると「充実している」と回答した短大生は 34.1%、「ある程度充実している」と回答したのが 37.6%である。このことから、7 割以上の短大生が現在の学生生活に充実していることがわかる。それとは反対に「充実していない」と答えた短大生は 4.5%、「あまり充実していない」と答えた短大生は 7.9%である。この結果から、多くの短大生が短大での生活に充実感を感じている一方で、約 8 人に 1 人の割合で充実した学生生活を送っていない短大生が存在することが読み取れる。

[37] もし大学や短大を選び直せたら、あなたはもう一度、本学に進学しますか。



問 37 は短大生に対して「もし選び直せたら、もう一度本学に進学するか」どうかを尋ねている。これによると「かならず進学する」と回答した短大生は 9.2%、「おそらく進学する」は 28.8%となっている。このことから 5 人中 2 人の割合で、現在所属している短大に再度進学したいと思っていることがわかる。しかしその一方で、「絶対に進学しない」と答えた短大生が 14.2%、「おそらく進学しない」と答えた短大生は 21.6%となっており、3 割以上の短大生が選び直せたら同じ短大に進学するとは限らないと考えている。また「わからない」と答えた短大生も 26.3%もいて、回答時点で現在の短大が再度入学するにふさわしいかどうか、もしくは判断できないと答えた短大生も 3 割弱いることになる。

第2部 集計一覧

[1] あなたの性別をお答えください。

	度数	パーセント
男性	401	5.7
女性	6676	94.3
合計	7077	100.0%
無回答	25	

[2] 今年度（2012年4月～2013年3月）、あなたは何歳になりますか。

	度数	パーセント
18歳以下	261	3.7
19歳	3018	42.6
20歳	3181	44.9
21-23歳	346	4.9
24-29歳	151	2.1
30-39歳	72	1.0
40-54歳	38	0.5
55歳以上	10	0.1
合計	7077	
無回答	25	100.0

[3] あなたの所属する学科の修業年限を教えてください。

	度数	パーセント
2年制	6177	87.3
3年制	895	12.7
合計	7072	
無回答	30	100.0

[4] あなたは本学に何年度に入学しましたか。

	度数	パーセント
2012(平成24)年度	3244	45.8
2011(平成23)年度	3505	49.5
2010(平成22)年度か、それ以前	327	4.6
合計	7076	
無回答	26	100.0

〔5〕 あなたの現在の在学状況を教えてください。

	度数	パーセント
1年生	3235	45.7
2年生	3637	51.4
3年生以上	196	2.8
その他(科目等履修生など)	10	0.1
合計	7078	
無回答	24	100.0

〔6〕 あなたの現在の住まいは次のうちどれですか。

	度数	パーセント
実家または親戚の家	5277	74.6
アパートやマンション	1194	16.9
大学の寮や下宿	552	7.8
その他	48	0.7
合計	7071	
無回答	31	100.0

〔7〕 あなたの片道の通学時間はどれくらいですか。

	度数	パーセント
30分未満	2629	37.2
30分以上－1時間未満	2159	30.5
1時間以上－1時間30分未満	1399	19.8
1時間30分以上－2時間未満	740	10.5
2時間以上	146	2.1
合計	7073	
無回答	29	100.0

〔8〕 あなたの高校での成績はどのあたりでしたか。

	度数	パーセント
上位の方	855	12.1
中の上くらい	1695	24.0
中くらい	2105	29.8
中の下くらい	1233	17.4
下位の方	942	13.3
その他	243	3.4
合計	7073	
無回答	29	100.0

〔9 (1)〕 あなたの高校は公立（県立・市立など）、私立、国立のどれでしたか。

	度数	パーセント
公立	4950	70.0
私立	2023	28.6
国立	31	0.4
その他	69	1.0
合計	7073	
無回答	29	100.0

〔9 (2)〕 あなたの高校は男女共学でしたか、別学でしたか。

	度数	パーセント
共学	6185	87.5
別学	881	12.5
合計	7066	
無回答	36	100.0

〔10-1〕 あなたは奨学金（貸与を含む）や授業料免除など経済的な援助を受けていますか（日本学生支援機構の奨学金）。

	度数	パーセント
受けていない	4471	63.0
受けている	2631	37.0
合計	7102	100.0

〔10-2〕 あなたは奨学金（貸与を含む）や授業料免除など経済的な援助を受けていますか（地方自治体の奨学金）。

	度数	パーセント
受けていない	6878	96.8
受けている	224	3.2
合計	7102	100.0

〔10-3〕 あなたは奨学金（貸与を含む）や授業料免除など経済的な援助を受けていますか（民間団体の奨学金）。

	度数	パーセント
受けていない	7019	98.8
受けている	83	1.2
合計	7102	100.0

〔10-4〕あなたは奨学金（貸与を含む）や授業料免除など経済的な援助を受けていますか（短大の奨学金や授業料免除）。

	度数	パーセント
受けていない	6322	89.0
受けている	780	11.0
合計	7102	100.0

〔10-5〕あなたは奨学金（貸与を含む）や授業料免除など経済的な援助を受けていますか（その他の経済的援助）。

	度数	パーセント
受けていない	6660	93.8
受けている	442	6.2
合計	7102	100.0

〔11-1〕入学以来、あなたは以下の項目のことをしましたか（単位を取得できなかった授業があった）。

	度数	パーセント
あてはまらない	6140	86.5
あてはまる	962	13.5
合計	7102	100.0

〔11-2〕入学以来、あなたは以下の項目のことをしましたか（学力不足を補うため補習授業を履修した）。

	度数	パーセント
あてはまらない	6388	89.9
あてはまる	714	10.1
合計	7102	100.0

〔11-3〕入学以来、あなたは以下の項目のことをしましたか（人権や民族に関する授業を履修した）。

	度数	パーセント
あてはまらない	5348	75.3
あてはまる	1754	24.7
合計	7102	100.0

〔11-4〕 入学以来、あなたは以下の項目のことをしましたか（女性学の授業を履修した）。

	度数	パーセント
あてはまらない	6647	93.6
あてはまる	455	6.4
合計	7102	100.0

〔11-5〕 入学以来、あなたは以下の項目のことをしましたか（リーダー養成やキャリア開発の訓練に参加した）。

	度数	パーセント
あてはまらない	6634	93.4
あてはまる	468	6.6
合計	7102	100.0

〔11-6〕 入学以来、あなたは以下の項目のことをしましたか（海外研修プログラムに参加した）。

	度数	パーセント
あてはまらない	6930	97.6
あてはまる	172	2.4
合計	7102	100.0

〔11-7〕 入学以来、あなたは以下の項目のことをしましたか（他の大学や短大、高等専門学校などの科目を履修して卒業単位に算入した）。

	度数	パーセント
あてはまらない	6935	97.6
あてはまる	167	2.4
合計	7102	100.0

〔11-8〕 入学以来、あなたは以下の項目のことをしましたか（他の大学や短大、高等専門学校などから転学した）。

	度数	パーセント
あてはまらない	7079	99.7
あてはまる	23	0.3
合計	7102	100.0

[12] あなたが本学に進学した理由として、次のことがらはどの程度重要でしたか。

	まったく 重要でない	あまり 重要でない	少し重要	とても重 要	合計	無回答
親の希望だった	2553 36.2	2175 30.8	1859 26.4	468 6.6	7055 100.0	47
親以外の親族・親せきから進学を勧められた	4728 67.0	1505 21.3	662 9.4	163 2.3	7058 100.0	44
高校の先生に勧められた	2549 36.1	1772 25.1	2001 28.4	730 10.4	7052 100.0	50
予備校や塾で勧められた	5752 82.0	841 12.0	337 4.8	83 1.2	7013 100.0	89
学費が適当であった	2667 37.9	1906 27.1	1697 24.1	764 10.9	7034 100.0	68
奨学金が支給された	3610 51.5	1197 17.1	1191 17.0	1018 14.5	7016 100.0	86
自宅から通学できる	1377 19.5	724 10.3	1806 25.6	3142 44.6	7049 100.0	53
就職に有利	677 9.6	928 13.2	2423 34.4	3017 42.8	7045 100.0	57
四年制大学より早く就職できる	1480 21.0	1636 23.2	2222 31.5	1710 24.3	7048 100.0	54
高校卒業後すぐに働きたくなかった	2411 34.2	1652 23.4	1761 25.0	1224 17.4	7048 100.0	54
本学で学ぶ内容に興味があった	508 7.2	995 14.1	2586 36.7	2956 42.0	7045 100.0	57
専門学校より幅広い勉強ができる	1055 15.0	1931 27.4	2484 35.3	1572 22.3	7042 100.0	60
学生生活を楽しんでみたかった	853 12.1	1373 19.5	2784 39.5	2030 28.8	7040 100.0	62
本学の校風に魅力があった	1453 20.6	2369 33.6	2272 32.2	954 13.5	7048 100.0	54
本学のキャンパスがきれいだった	1768 25.1	2333 33.1	2040 29.0	905 12.8	7046 100.0	56
資格をとるために必要だった	586 8.3	690 9.8	1593 22.6	4188 59.3	7057 100.0	45
大学に編入することもできる	2899 41.2	2087 29.6	1235 17.5	821 11.7	7042 100.0	60
推薦入試等で入学が早く内定した	1805 25.6	1143 16.2	1851 26.3	2243 31.9	7042 100.0	60

[13] あなたは留学生ですか。(1つだけ選んで○をつけてください)

	度数	パーセント
はい	46	0.7
いいえ	6888	99.3
合計	6934	
無回答	168	100.0

[14] あなたは次の科目について、学習補助や補習授業など特別な学習支援を受けていますか。また、そのような支援を受けたいと思いますか。

	特別な学習支援を現在		合計	特別な学習支援を今後		合計
	受けている	受けていない		受けたい	受けたくない	
文章表現	367	5279	5646	1968	2532	4500
	6.5	93.5	100	43.7	56.3	100
数学	180	5475	5655	838	3642	4480
	3.2	96.8	100	18.7	81.3	100
理科	223	5442	5665	847	3615	4462
	3.9	96.1	100	19.0	81.0	100
英語	531	5065	5596	1561	2969	4530
	9.5	90.5	100	34.5	65.5	100

〔15〕 入学してから、あなたは次の項目をどれくらいしましたか。

	まったく しなかった	あまり しなかった	ときどき した	ひんばんに した	合計	無回答
学際的な授業を履修した	2478 35.6	2349 33.7	1654 23.8	483 6.9	6964 100	138
自主的な学習プロジェクトに参加した	3383 48.2	2354 33.5	1053 15.0	231 3.3	7021 100	81
授業内容について他の学生と議論した	2098 29.8	2123 30.2	2177 30.9	642 9.1	7040 100	62
教員と懇親会を持った	5031 71.5	1124 16.0	744 10.6	137 1.9	7036 100	66
スポーツに参加した	2756 39.2	1457 20.7	1735 24.7	1088 15.5	7036 100	66
提出期限までに宿題を完成できなかった	2891 41.0	2026 28.7	1771 25.1	365 5.2	7053 100	49
授業をつまらなく感じた	370 5.2	1394 19.8	3715 52.6	1578 22.4	7057 100	45
授業に遅刻した	2186 31.0	2058 29.2	2143 30.4	662 9.4	7049 100	53
他の学生と一緒に勉強した	1036 14.7	1304 18.5	2949 41.8	1762 25.0	7051 100	51
ボランティア活動をした	2758 39.1	1518 21.5	1854 26.3	916 13.0	7046 100	56
インターネットを使って授業課題を受けた	2359 33.5	1338 19.0	2027 28.8	1318 18.7	7042 100	60
インターネットを使って授業課題を提出した	1950 27.7	1214 17.2	2344 33.3	1530 21.7	7038 100	64
研究や宿題のためにWeb上の情報を利用した	698 9.9	892 12.7	2841 40.4	2604 37.0	7035 100	67
Web上でニュースを読んだ	1202 17.1	1418 20.1	2343 33.3	2082 29.6	7045 100	57
Web上でブログを読んだ	1347 19.1	1183 16.8	2114 30.0	2412 34.2	7056 100	46
Web上でブログを書いた	2969 42.1	1471 20.9	1439 20.4	1175 16.7	7054 100	48
研究や宿題のために図書館を利用した	1247 17.7	1378 19.5	2745 38.9	1685 23.9	7055 100	47
アルバイトなどで授業を欠席した	5302 75.1	1028 14.6	585 8.3	141 2.0	7056 100	46
その他の理由で授業を欠席した	1630 23.1	2386 33.8	2369 33.6	667 9.5	7052 100	50
他の学生の学習補助をした	4896 69.5	1478 21.0	536 7.6	133 1.9	7043 100	59
短大の教職員に将来のキャリアの相談をした	2566 36.4	2101 29.8	1783 25.3	596 8.5	7046 100	56
授業中に居眠りをした	689 9.8	1520 21.6	3244 46.0	1598 22.7	7051 100	51
取りたい授業を履修登録できなかった	5039 71.5	1156 16.4	624 8.9	228 3.2	7047 100	55
楽器を演奏した	3071 43.6	824 11.7	1360 19.3	1791 25.4	7046 100	56
オフィスアワーなどの時間に教員と面談した	3691 52.5	1998 28.4	1131 16.1	216 3.1	7036 100	66
授業中、教員の考え方や意見に異議を唱えた	4166 59.1	1962 27.8	746 10.6	172 2.4	7046 100	56
教員に親近感を感じた	1568 22.3	2268 32.2	2454 34.8	754 10.7	7044 100	58

〔16〕あなたが本学で専攻する専門分野はどれですか。

	度数	パーセント
保健衛生	107	1.5
看護	362	5.2
農工	15	0.2
人文	597	8.5
経営	356	5.1
福祉	337	4.8
家政	176	2.5
栄養	966	13.8
教育	3713	52.9
芸術	238	3.4
その他	151	2.2
合計	7018	100.0

〔17〕あなたは将来的に、どの程度まで進学を考えていますか。

	短期大学 を卒業	短期大学の 専攻科を卒業	大学・大学院 を卒業	その他	合計	無回答
度数	5932	523	404	163	7022	80
パーセント	84.5	7.4	5.8	2.3	100.0	

〔18〕あなたは今年度、次の活動に1週間あたりどれくらいの時間を費やしましたか。

	0時間	1時間 未満	1-2 時間	3-5 時間	6-10 時間	11-15 時間	16-20 時間	20時間 以上	合計	無回答
勉強や宿題	782	1866	1760	1298	648	249	130	313	7046	56
	11.1	26.5	25.0	18.4	9.2	3.5	1.8	4.4	100.0	
授業への出席	143	174	194	264	594	640	991	4014	7014	88
	2.0	2.5	2.8	3.8	8.5	9.1	14.1	57.2	100.0	
友人との交際	149	351	764	1298	1364	745	523	1824	7018	84
	2.1	5.0	10.9	18.5	19.4	10.6	7.5	26.0	100.0	
授業以外での教員との会話	1357	3788	1091	441	182	87	31	55	7032	70
	19.3	53.9	15.5	6.3	2.6	1.2	0.4	0.8	100.0	
運動やスポーツ	1852	2221	1516	750	361	137	62	134	7033	69
	26.3	31.6	21.6	10.7	5.1	1.9	0.9	1.9	100.0	
アルバイト	2448	195	264	540	927	985	819	849	7027	75
	34.8	2.8	3.8	7.7	13.2	14.0	11.7	12.1	100.0	
ボランティア活動	4913	925	483	327	204	51	43	82	7028	74
	69.9	13.2	6.9	4.7	2.9	0.7	0.6	1.2	100.0	
部活動や同好会	4686	634	665	493	258	108	60	122	7026	76
	66.7	9.0	9.5	7.0	3.7	1.5	0.9	1.7	100.0	
テレビ鑑賞	336	764	1199	1394	1124	695	478	1034	7024	78
	4.8	10.9	17.1	19.8	16.0	9.9	6.8	14.7	100.0	
家事手伝い	916	2011	1547	1004	624	311	195	418	7026	76
	13.0	28.6	22.0	14.3	8.9	4.4	2.8	5.9	100.0	
趣味としての読書	3551	1603	789	525	264	102	63	125	7022	80
	50.6	22.8	11.2	7.5	3.8	1.5	0.9	1.8	100.0	
携帯電話の使用	80	346	631	931	940	747	628	2734	7037	65
	1.1	4.9	9.0	13.2	13.4	10.6	8.9	38.9	100.0	
インターネット上での友人との交流	1685	1310	1024	876	628	390	302	821	7036	66
	23.9	18.6	14.6	12.5	8.9	5.5	4.3	11.7	100.0	

〔19〕 あなたは今年度、次のことがらをどの程度経験しましたか。

	まったく なかった	あまり なかった	ときどき あった	ひんばん にあった	合計	無回答
礼拝や宗教的な活動に参加した	4407 62.6	1008 14.3	1224 17.4	401 5.7	7040 100.0	62
政治的な活動に参加した	6303 89.5	551 7.8	138 2.0	52 0.7	7044 100.0	58
喫煙した	6360 90.4	196 2.8	218 3.1	263 3.7	7037 100.0	65
アルコール飲料を飲んだ	3180 45.2	1339 19.0	1945 27.6	574 8.2	7038 100.0	64
やるべきことの多さに圧倒された	809 11.5	985 14.0	2651 37.7	2586 36.8	7031 100.0	71
留学生と交流した	5805 82.5	635 9.0	427 6.1	170 2.4	7037 100.0	65
宗教について討論した	6137 87.2	586 8.3	240 3.4	76 1.1	7039 100.0	63
政治について討論した	5765 82.0	831 11.8	351 5.0	82 1.2	7029 100.0	73
ゆううつで落ち込んだ	1552 22.1	1666 23.7	2427 34.5	1393 19.8	7038 100.0	64
個人的にカウンセリングを求めた	5990 85.1	606 8.6	310 4.4	129 1.8	7035 100.0	67

〔20〕あなたは、同年齢の人たちと比べて、次のことがらについてどのように自己評価しますか。

	下位 10%	平均 以下	平均	平均 以上	上位 10%	合計	無回答
一般的な教養	272 3.9	1344 19.1	4425 63.0	844 12.0	144 2.0	7029 100.0	73
学力	358 5.1	2051 29.2	3874 55.1	663 9.4	90 1.3	7036 100.0	66
芸術的な能力	598 8.5	2031 28.9	3031 43.1	1151 16.4	220 3.1	7031 100.0	71
競争心	403 5.7	1479 21.1	3096 44.1	1621 23.1	424 6.0	7023 100.0	79
コンピュータの操作能力	700 10.0	1830 26.1	2984 42.5	1257 17.9	249 3.5	7020 100.0	82
協調性	252 3.6	904 12.9	3431 48.8	1911 27.2	530 7.5	7028 100.0	74
創造性	277 3.9	1438 20.5	3607 51.3	1376 19.6	332 4.7	7030 100.0	72
やる気	320 4.6	1071 15.3	3534 50.3	1539 21.9	557 7.9	7021 100.0	81
情緒面での安定度	515 7.3	1522 21.7	3528 50.3	1085 15.5	367 5.2	7017 100.0	85
リーダーシップ	905 12.9	1966 28.0	2929 41.8	952 13.6	263 3.7	7015 100.0	87
ねばり強さ	328 4.7	1138 16.2	3228 45.9	1739 24.7	606 8.6	7039 100.0	63
数理的な能力	1240 17.6	2539 36.1	2518 35.8	613 8.7	126 1.8	7036 100.0	66
体の健康	256 3.6	1047 14.9	3341 47.5	1517 21.6	877 12.5	7038 100.0	64
プレゼンテーションの能力	808 11.5	2506 35.6	3054 43.4	530 7.5	139 2.0	7037 100.0	65
チャレンジ精神	336 4.8	1364 19.4	3433 48.8	1422 20.2	476 6.8	7031 100.0	71
知的面での自信	639 9.1	2188 31.1	3507 49.9	565 8.0	134 1.9	7033 100.0	69
社交面での自信	497 7.1	1575 22.4	3394 48.3	1176 16.7	392 5.6	7034 100.0	68
自己の理解	252 3.6	1016 14.5	4167 59.3	1267 18.0	329 4.7	7031 100.0	71
スピリチュアリティ	411 5.8	1388 19.7	4270 60.7	757 10.8	205 2.9	7031 100.0	71
信仰心	1173 16.7	1995 28.4	3354 47.7	388 5.5	123 1.7	7033 100.0	69
他者の理解	212 3.0	766 10.9	4149 59.0	1605 22.8	301 4.3	7033 100.0	69
文章表現の能力	568 8.1	1992 28.3	3523 50.1	797 11.3	155 2.2	7035 100.0	67
文章読解の能力	535 7.6	1782 25.3	3674 52.2	877 12.5	168 2.4	7036 100.0	66
外国語の能力	1553 22.1	2449 34.9	2510 35.7	416 5.9	97 1.4	7025 100.0	77

〔21〕あなたは、本学の次のことから、どの程度満足していますか。（※「わからない」を欠損値扱い）

	とても 不満	不満	どちらでも ない	満足	とても 満足	合計	(欠損値) わからない無回答	
コンピュータの施設や設備	215 3.2%	702 10.5%	2551 38.1%	2514 37.5%	721 10.8%	6703 100.0%	320	79
コンピュータの訓練や援助	212 3.2%	727 11.0%	3393 51.4%	1885 28.5%	389 5.9%	6606 100.0%	420	76
インターネットの使いやすさ	272 4.1%	941 14.1%	2826 42.5%	2100 31.6%	514 7.7%	6653 100.0%	365	84
図書館の設備	180 2.7%	594 8.9%	2305 34.7%	2636 39.7%	927 14.0%	6642 100.0%	373	87
実験室・実習室の設備や器具	163 2.9%	495 8.9%	2778 50.0%	1656 29.8%	463 8.3%	5555 100.0%	1450	97
就職の斡旋サービス	191 3.2%	526 8.7%	2811 46.6%	1911 31.7%	598 9.9%	6037 100.0%	977	88
キャリアカウンセリング	175 3.2%	490 9.0%	3105 56.8%	1320 24.1%	378 6.9%	5468 100.0%	1537	97
奨学金など学費援助の制度	160 2.9%	387 7.1%	2794 50.9%	1656 30.2%	488 8.9%	5485 100.0%	1519	98
ボランティア活動の機会	145 2.4%	503 8.5%	3113 52.5%	1665 28.1%	508 8.6%	5934 100.0%	1080	88
健康保健サービス	147 2.9%	357 7.0%	3417 66.6%	1017 19.8%	189 3.7%	5127 100.0%	1881	94
下宿やアパートの斡旋や紹介	210 4.6%	445 9.8%	2920 64.3%	794 17.5%	171 3.8%	4540 100.0%	2456	106
リーダーシップ発揮の機会	159 2.9%	404 7.3%	3686 66.4%	1076 19.4%	230 4.1%	5555 100.0%	1462	85
レクリエーション施設	257 5.0%	574 11.1%	3292 63.8%	880 17.0%	160 3.1%	5163 100.0%	1856	83
心理相談やカウンセリングサービス	188 3.9%	406 8.4%	3185 66.1%	856 17.8%	181 3.8%	4816 100.0%	2201	85

〔21〕あなたは、本学の次のことさらに、どの程度満足していますか。（※「わからない」を有効回答扱い）

	とても 不満	不満	どちらでも ない	満足	とても 満足	わからない	合計	無回答
コンピュータの施設や設備	215 3.1%	702 10.0%	2551 36.3%	2514 35.8%	721 10.3%	320 4.6%	7023 100.0%	79
コンピュータの訓練や援助	212 3.0%	727 10.3%	3393 48.3%	1885 26.8%	389 5.5%	420 6.0%	7026 100.0%	76
インターネットの使いやすさ	272 3.9%	941 13.4%	2826 40.3%	2100 29.9%	514 7.3%	365 5.2%	7018 100.0%	84
図書館の設備	180 2.6%	594 8.5%	2305 32.9%	2636 37.6%	927 13.2%	373 5.3%	7015 100.0%	87
実験室・実習室の設備や器具	163 2.3%	495 7.1%	2778 39.7%	1656 23.6%	463 6.6%	1450 20.7%	7005 100.0%	97
就職の斡旋サービス	191 2.7%	526 7.5%	2811 40.1%	1911 27.2%	598 8.5%	977 13.9%	7014 100.0%	88
キャリアカウンセリング	175 2.5%	490 7.0%	3105 44.3%	1320 18.8%	378 5.4%	1537 21.9%	7005 100.0%	97
奨学金など学費援助の制度	160 2.3%	387 5.5%	2794 39.9%	1656 23.6%	488 7.0%	1519 21.7%	7004 100.0%	98
ボランティア活動の機会	145 2.1%	503 7.2%	3113 44.4%	1665 23.7%	508 7.2%	1080 15.4%	7014 100.0%	88
健康保健サービス	147 2.1%	357 5.1%	3417 48.8%	1017 14.5%	189 2.7%	1881 26.8%	7008 100.0%	94
下宿やアパートの斡旋や紹介	210 3.0%	445 6.4%	2920 41.7%	794 11.3%	171 2.4%	2456 35.1%	6996 100.0%	106
リーダーシップ発揮の機会	159 2.3%	404 5.8%	3686 52.5%	1076 15.3%	230 3.3%	1462 20.8%	7017 100.0%	85
レクリエーション施設	257 3.7%	574 8.2%	3292 46.9%	880 12.5%	160 2.3%	1856 26.4%	7019 100.0%	83
心理相談やカウンセリングサービス	188 2.7%	406 5.8%	3185 45.4%	856 12.2%	181 2.6%	2201 31.4%	7017 100.0%	85

〔22〕 本学の短大教員は、あなたに次のような活動をどのくらい提供しましたか。

	まったく なかった	あまり なかった	ときどき あった	ひんぱんに あった	合計	無回答
就職や編入学など進路選択の励まし	920 13.1%	2087 29.8%	3062 43.7%	933 13.3%	7002 100.0%	100
研究プロジェクトに関わる機会	2159 30.9%	3066 43.8%	1549 22.1%	223 3.2%	6997 100.0%	105
教育課程や授業に対する助言や指導	675 9.6%	2144 30.6%	3367 48.0%	824 11.8%	7010 100.0%	92
心の支えや励まし	1053 15.0%	2458 35.1%	2754 39.3%	743 10.6%	7008 100.0%	94
推薦状の執筆	2812 40.4%	2550 36.6%	1384 19.9%	214 3.1%	6960 100.0%	142
学習能力を向上するための手助け	988 14.1%	2708 38.7%	2779 39.7%	526 7.5%	7001 100.0%	101
成績評価以外の学習アドバイス	1195 17.1%	2837 40.5%	2502 35.7%	471 6.7%	7005 100.0%	97
知的にやりがいのある課題や励まし	1265 18.1%	3106 44.3%	2277 32.5%	358 5.1%	7006 100.0%	96
授業以外でも学習内容を話し合う機会	1433 20.5%	2980 42.6%	2205 31.5%	385 5.5%	7003 100.0%	99
専門的な目標を達成する手助け	1103 15.7%	2542 36.3%	2726 38.9%	635 9.1%	7006 100.0%	96
教室での学習を「実生活」に応用する機会	1316 18.8%	2924 41.8%	2343 33.5%	419 6.0%	7002 100.0%	100

〔23〕 入学した時点と比べて、あなたの能力や知識はどのように変化しましたか。

	大きく 減った	減った	変化なし	増えた	大きく 増えた	合計	無回答
一般的な教養	100 1.4%	348 5.0%	2429 34.9%	3676 52.8%	414 5.9%	6967 100.0%	135
分析や問題解決能力	64 0.9%	337 4.8%	3304 47.4%	3025 43.4%	236 3.4%	6966 100.0%	136
専門分野や学科の知識	62 0.9%	133 1.9%	1374 19.7%	3488 50.1%	1902 27.3%	6959 100.0%	143
批判的に考える能力	62 0.9%	385 5.5%	3925 56.4%	2271 32.6%	317 4.6%	6960 100.0%	142
異文化の人々に関する知識	143 2.1%	365 5.2%	4207 60.5%	1919 27.6%	325 4.7%	6959 100.0%	143
リーダーシップの能力	91 1.3%	371 5.3%	4120 59.2%	2086 30.0%	295 4.2%	6963 100.0%	139
人間関係を構築する能力	79 1.1%	268 3.8%	2613 37.5%	3350 48.1%	653 9.4%	6963 100.0%	139
他の人と協力して物事を遂行する能力	64 0.9%	220 3.2%	2359 33.9%	3380 48.6%	936 13.5%	6959 100.0%	143
異文化の人々と協力する能力	207 3.0%	394 5.7%	4899 70.5%	1251 18.0%	200 2.9%	6951 100.0%	151
地域社会が直面する問題の理解	94 1.4%	326 4.7%	4187 60.2%	2083 29.9%	268 3.9%	6958 100.0%	144
国民が直面する問題の理解	99 1.4%	292 4.2%	4301 61.9%	2077 29.9%	182 2.6%	6951 100.0%	151
グローバルな問題の理解	122 1.8%	352 5.1%	4726 68.0%	1589 22.9%	165 2.4%	6954 100.0%	148
文章表現の能力	93 1.3%	396 5.7%	3632 52.2%	2583 37.1%	256 3.7%	6960 100.0%	142
外国語の運用能力	244 3.5%	800 11.5%	4500 64.7%	1227 17.6%	186 2.7%	6957 100.0%	145
コミュニケーションの能力	86 1.2%	249 3.6%	2747 39.5%	3234 46.5%	644 9.3%	6960 100.0%	142
プレゼンテーションの能力	93 1.3%	326 4.7%	4132 59.3%	2104 30.2%	308 4.4%	6963 100.0%	139
数理的な能力	341 4.9%	988 14.2%	4642 66.8%	894 12.9%	86 1.2%	6951 100.0%	151
コンピュータの操作能力	90 1.3%	308 4.4%	3224 46.3%	2893 41.6%	441 6.3%	6956 100.0%	146
時間を効果的に利用する能力	92 1.3%	316 4.5%	3211 46.1%	2870 41.2%	471 6.8%	6960 100.0%	142
卒業後に就職するための準備の程度	89 1.3%	207 3.0%	2711 39.0%	3240 46.6%	708 10.2%	6955 100.0%	147

[24] 本学に入学してから、あなたは次の項目にどのくらいうまくいきましたか。

	まったく うまくい なかつた	あまり うまくい なかつた	いくら うまかつた	とても うまかつた	合計	無回答
学生向けサービスを上手に利用する	540 7.8%	2763 39.8%	3312 47.7%	329 4.7%	6944 100.0%	158
短大教員の学問的な期待を理解する	465 6.7%	3165 45.6%	3093 44.5%	225 3.2%	6948 100.0%	154
効果的に学習する技能を修得する	342 4.9%	2672 38.5%	3600 51.8%	331 4.8%	6945 100.0%	157
短大が求める水準に応じて学習する	355 5.1%	2775 39.9%	3484 50.1%	335 4.8%	6949 100.0%	153
時間を効果的に使う	299 4.3%	2178 31.3%	3798 54.7%	674 9.7%	6949 100.0%	153
短大教員と顔見知りになる	268 3.9%	1628 23.4%	3996 57.4%	1065 15.3%	6957 100.0%	145
他の学生との友情を深める	233 3.3%	1002 14.4%	3513 50.5%	2212 31.8%	6960 100.0%	142

[25] あなたの本学での成績はどれくらいですか。

	度数	パーセント
上位の方	472	6.8%
中の上くらい	1078	15.5%
中くらい	2425	34.9%
中の下くらい	1174	16.9%
下位の方	929	13.4%
その他	864	12.4%
合計	6942	100.0%
無回答	160	

[26] あなたの人生にとって、次のことがらはどの程度重要ですか。

	まったく 重要でない	あまり 重要でない	少し 重要	とても 重要	合計	無回答
専門分野で第一人者になる	1069 15.4%	2726 39.3%	2389 34.4%	759 10.9%	6943 100.0%	159
専門分野で仲間に認められる	385 5.5%	1298 18.7%	3503 50.4%	1759 25.3%	6945 100.0%	157
政治的な活動にたずさわる	2291 33.0%	2864 41.3%	1544 22.2%	242 3.5%	6941 100.0%	161
社会の価値観に影響を与える	1490 21.5%	2761 39.8%	2210 31.9%	475 6.8%	6936 100.0%	166
家族を養う	268 3.9%	1035 14.9%	3118 45.0%	2512 36.2%	6933 100.0%	169
家庭を築く	265 3.8%	845 12.2%	2569 37.0%	3264 47.0%	6943 100.0%	159
企業や団体などで管理職になる	1573 22.7%	3146 45.4%	1792 25.8%	422 6.1%	6933 100.0%	169
会社などで出世する	1066 15.4%	2434 35.1%	2616 37.7%	827 11.9%	6943 100.0%	159
お金持ちになる	521 7.5%	2016 29.0%	2970 42.8%	1438 20.7%	6945 100.0%	157
困っている人の役に立つ	207 3.0%	804 11.6%	3137 45.2%	2787 40.2%	6935 100.0%	167
文芸作品を執筆する	2874 41.5%	2495 36.0%	1253 18.1%	310 4.5%	6932 100.0%	170
芸術作品を製作する	2766 39.9%	2342 33.8%	1409 20.3%	422 6.1%	6939 100.0%	163
舞台芸術で成功する	2841 41.0%	2413 34.8%	1262 18.2%	416 6.0%	6932 100.0%	170
ビジネスで成功する	1680 24.2%	2400 34.6%	2168 31.3%	682 9.8%	6930 100.0%	172
環境を守るための活動に参加	911 13.1%	2489 35.9%	2850 41.1%	684 9.9%	6934 100.0%	168
人生の意味を深く考える	552 8.0%	1799 26.0%	3132 45.2%	1448 20.9%	6931 100.0%	171
地域社会の活動に参加する	698 10.1%	2129 30.7%	3182 45.9%	918 13.3%	6927 100.0%	175
人権意識の向上に役立つ	946 13.6%	2776 40.1%	2561 36.9%	648 9.3%	6931 100.0%	171
政治の動向に関心を持つ	1409 20.3%	2784 40.2%	2270 32.8%	466 6.7%	6929 100.0%	173
地域社会のリーダーになる	1957 28.2%	3215 46.4%	1467 21.2%	292 4.2%	6931 100.0%	171
精神性や信仰心を生活に反映させる	1731 25.0%	2967 42.9%	1844 26.7%	377 5.4%	6919 100.0%	183
多様な社会や文化を理解する	737 10.7%	1922 27.8%	3090 44.7%	1166 16.9%	6915 100.0%	187
友人関係を大切にす	94 1.4%	369 5.3%	1824 26.3%	4644 67.0%	6931 100.0%	171
自分の生きたい人生を送る	76 1.1%	321 4.6%	1695 24.5%	4839 69.8%	6931 100.0%	171

[27-1] 次のうち、女性の生き方としてあなたの考えに最も近いものはどれですか。

女性の生き方の回答割合（全体）

	度数	パーセント
結婚しないで仕事を続ける	258	3.8%
結婚や出産をしても仕事を続ける	2604	37.9%
結婚や出産時に仕事をやめる	864	12.6%
子どもの手が離れたら再び働く	3065	44.6%
就職はしないで結婚する	79	1.1%
合計	6870	100.0%
無回答	232	

[27-2] 次のうち、女性の生き方としてあなたの考えに最も近いものはどれですか。

女性の生き方の回答割合（女子学生のみ）

	度数	パーセント
結婚しないで仕事を続ける	246	3.8%
結婚や出産をしても仕事を続ける	2469	38.0%
結婚や出産時に仕事をやめる	807	12.4%
子どもの手が離れたら再び働く	2920	44.9%
就職はしないで結婚する	61	0.9%
合計	6503	100.0%
無回答	173	

[28] 卒業後に就職を予定している場合、あなたの現在の状況を教えてください。

現在の就職活動の状況（全体）

	度数	パーセント
積極的には職を探していない	1540	27.8%
就職活動中であるが、内定が無い	1502	19.9%
内定を受けたが、断った	119	1.6%
ある内定を受けるかどうか考慮中	333	5.3%
内定が決定した	1478	19.2%
今年は就職を考えていない	1715	26.1%
合計	6687	100.0%
無回答	415	

現在の就職活動の状況（学年別傾向）

	1年生		2年生以上		合計	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
積極的には職を探していない	1135	37.3%	399	11.0%	1534	100.0%
就職活動中であるが、内定が無い	263	8.7%	1235	34.0%	1498	100.0%
内定を受けたが、断った	52	1.7%	66	1.8%	118	100.0%
ある内定を受けるかどうか考慮中	176	5.8%	157	4.3%	333	100.0%
内定が決定した	82	2.7%	1393	38.4%	1475	100.0%
今年は就職を考えていない	1332	43.8%	382	10.5%	1714	100.0%
合計	3040	100.0%	3632	100.0%	6672	100.0%

[29] あなたは将来、どのような職業やキャリアに進みたいですか。

	度数	パーセント
建築士や都市設計士	7	0.1%
エンジニア	7	0.1%
プログラマー	15	0.2%
歯科医	15	0.2%
医師	8	0.1%
獣医	5	0.1%
薬剤師	5	0.1%
看護師	325	4.8%
医療技師や衛生士	59	0.9%
理学療法士や作業療法士、言語聴覚士	2	0.0%
栄養士や管理栄養士	470	7.0%
介護福祉士や社会福祉士	268	4.0%
ホームヘルパー	22	0.3%
保育士	2235	33.3%
弁護士や裁判官	3	0.0%
会計士や税理士	10	0.1%
幼稚園の教員	776	11.6%
小学校の教員	26	0.4%
中学校や高校の教員	27	0.4%
大学や短大の教員	13	0.2%
その他学校の教員	7	0.1%
学校外の各種の教員職	15	0.2%
学校や大学の職員	5	0.1%
学校長や学校経営者	3	0.0%
学校のカウンセラー	5	0.1%
臨床心理士	14	0.2%
聖職者	12	0.2%
芸術家	73	1.1%
インテリアデザイナー	26	0.4%
作家やジャーナリスト	28	0.4%
演奏家や作曲家	26	0.4%
俳優や演出家	83	1.2%
国や地方自治体の議員	2	0.0%
国家公務員	16	0.2%
地方公務員	100	1.5%
自衛隊員	2	0.0%
警察官	12	0.2%
消防士	3	0.0%
パイロットや客室乗務員	22	0.3%
海外勤務者	45	0.7%
ベンチャービジネス	8	0.1%
科学研究者	3	0.0%
旅行や観光業の仕事	67	1.0%
新聞や放送関係の仕事	22	0.3%
インターネット関係の仕事	31	0.5%
企業や団体の事務職	272	4.1%
企業や団体の経営者	15	0.2%
小売店の自営業者	32	0.5%
販売員や卸売業者	181	2.7%
農林水産業の従事者	3	0.0%
製造業の技能工	47	0.7%
専業主婦	128	1.9%
フリーター	39	0.6%
その他	407	6.1%
まだ決めていない	655	9.8%
合計	6707	100.0%
無回答	395	

幼稚園の教員

[29] あなたは将来、どのような職業やキャリアに進みたいですか。(上位 10 位まで)

	度数	パーセント
保育士	2235	33.3%
幼稚園の教員	776	11.6%
栄養士や管理栄養士	470	7.0%
看護師	325	4.8%
企業や団体の事務職	272	4.1%
介護福祉士や社会福祉士	268	4.0%
販売員や卸売業者	181	2.7%
専業主婦	128	1.9%
地方公務員	100	1.5%
俳優や演出家	83	1.2%
その他(選択肢内の職業)	807	12.0%
その他(選択肢外の職業)	407	6.1%
まだ決めていない	655	9.8%
合計	6707	100.0%
無回答	395	

[30] 短大卒業後のキャリアを考えると、次のことがらはどの程度重要ですか。

	まったく 重要でない	あまり 重要でない	少し 重要	とても 重要	合計	無回答
社会を変えるための仕事	819 11.8%	2740 39.6%	2706 39.1%	651 9.4%	6916 100.0%	186
高収入の可能性	331 4.8%	1823 26.3%	3521 50.8%	1254 18.1%	6929 100.0%	173
世間的な知名度や地位	843 12.2%	3030 43.8%	2495 36.0%	554 8.0%	6922 100.0%	180
生活の安定や保証	138 2.0%	604 8.7%	3017 43.6%	3166 45.7%	6925 100.0%	177
創造性や独創性	551 8.0%	2249 32.5%	3055 44.1%	1071 15.5%	6926 100.0%	176
自己を表現する仕事	438 6.3%	1815 26.2%	3266 47.2%	1404 20.3%	6923 100.0%	179
自由な時間	182 2.6%	940 13.6%	3295 47.6%	2504 36.2%	6921 100.0%	181
リーダーシップを発揮できる可能性	897 13.0%	2977 43.0%	2411 34.9%	633 9.2%	6918 100.0%	184
さまざまな領域の仕事をする可能性	725 10.5%	2584 37.4%	2785 40.3%	819 11.8%	6913 100.0%	189

[31] あなたは、本学にどれくらい満足していますか。(※「わからない」を欠損値扱い)

	とても 不満	不満	どちらでも ない	満足	とても 満足	合計	(欠損値)	
							わからない	無回答
共通教育あるいは教養教育の授業	132 2.0%	414 6.3%	3050 46.7%	2474 37.9%	457 7.0%	6527 100.0%	393	182
専門科目の授業	106 1.6%	343 5.1%	2340 35.0%	3066 45.9%	825 12.4%	6680 100.0%	243	179
1年次生を対象とした教育プログラム内容	163 2.7%	443 7.4%	3291 54.9%	1748 29.1%	352 5.9%	5997 100.0%	899	206
授業の全体的な質	187 2.8%	753 11.3%	3156 47.4%	2236 33.6%	329 4.9%	6661 100.0%	252	189
日常生活と授業の内容との関連	120 1.8%	447 6.8%	3410 51.6%	2275 34.4%	353 5.3%	6605 100.0%	310	187
キャリア計画に対する授業内容の有効性	126 1.9%	429 6.6%	3121 48.0%	2339 36.0%	491 7.5%	6506 100.0%	408	188
1つの授業を履修する学生数	117 1.8%	452 7.0%	3256 50.1%	2297 35.3%	378 5.8%	6500 100.0%	404	198
教員と話をする機会	140 2.1%	509 7.7%	3513 53.3%	2003 30.4%	420 6.4%	6585 100.0%	329	188
教職員による学生支援体制	168 2.6%	547 8.5%	3499 54.3%	1875 29.1%	351 5.5%	6440 100.0%	476	186
個人別の学習指導や援助	187 2.9%	646 10.1%	3632 56.9%	1627 25.5%	293 4.6%	6385 100.0%	532	185
履修や成績に対するアドバイス	186 2.9%	647 10.0%	3558 54.8%	1779 27.4%	326 5.0%	6496 100.0%	415	191
他の学生と話をする機会	119 1.8%	331 5.0%	2697 40.7%	2500 37.8%	973 14.7%	6620 100.0%	293	189
学生同士の一体感	138 2.1%	425 6.4%	2786 42.2%	2403 36.4%	854 12.9%	6606 100.0%	306	190
学生交流の機会	127 1.9%	416 6.3%	3041 46.1%	2297 34.8%	722 10.9%	6603 100.0%	310	189
多様な考え方を認め合う雰囲気	151 2.3%	451 6.9%	3238 49.4%	2161 33.0%	557 8.5%	6558 100.0%	356	188
短大全体の学生数	127 2.0%	367 5.6%	3172 48.8%	2241 34.5%	591 9.1%	6498 100.0%	414	190
短大での経験全般について	116 1.8%	350 5.3%	2872 43.8%	2482 37.9%	730 11.1%	6550 100.0%	358	194

[31] あなたは、本学にどれくらい満足していますか。(※「わからない」を有効回答扱い)

	とても 不満	不満	どちらでも ない	満足	とても 満足	わからない	合計	無回答
共通教育あるいは教養教育の授業	132 1.9%	414 6.0%	3050 44.1%	2474 35.8%	457 6.6%	393 5.7%	6920 100.0%	182
専門科目の授業	106 1.5%	343 5.0%	2340 33.8%	3066 44.3%	825 11.9%	243 3.5%	6923 100.0%	179
1年次生を対象とした教育プログラム内容	163 2.4%	443 6.4%	3291 47.7%	1748 25.3%	352 5.1%	899 13.0%	6896 100.0%	206
授業の全体的な質	187 2.7%	753 10.9%	3156 45.7%	2236 32.3%	329 4.8%	252 3.6%	6913 100.0%	189
日常生活と授業の内容との関連	120 1.7%	447 6.5%	3410 49.3%	2275 32.9%	353 5.1%	310 4.5%	6915 100.0%	187
キャリア計画に対する授業内容の有効性	126 1.8%	429 6.2%	3121 45.1%	2339 33.8%	491 7.1%	408 5.9%	6914 100.0%	188
1つの授業を履修する学生数	117 1.7%	452 6.5%	3256 47.2%	2297 33.3%	378 5.5%	404 5.9%	6904 100.0%	198
教員と話をする機会	140 2.0%	509 7.4%	3513 50.8%	2003 29.0%	420 6.1%	329 4.8%	6914 100.0%	188
教職員による学生支援体制	168 2.4%	547 7.9%	3499 50.6%	1875 27.1%	351 5.1%	476 6.9%	6916 100.0%	186
個人別の学習指導や援助	187 2.7%	646 9.3%	3632 52.5%	1627 23.5%	293 4.2%	532 7.7%	6917 100.0%	185
履修や成績に対するアドバイス	186 2.7%	647 9.4%	3558 51.5%	1779 25.7%	326 4.7%	415 6.0%	6911 100.0%	191
他の学生と話をする機会	119 1.7%	331 4.8%	2697 39.0%	2500 36.2%	973 14.1%	293 4.2%	6913 100.0%	189
学生同士の一体感	138 2.0%	425 6.1%	2786 40.3%	2403 34.8%	854 12.4%	306 4.4%	6912 100.0%	190
学生交流の機会	127 1.8%	416 6.0%	3041 44.0%	2297 33.2%	722 10.4%	310 4.5%	6913 100.0%	189
多様な考え方を認め合う雰囲気	151 2.2%	451 6.5%	3238 46.8%	2161 31.3%	557 8.1%	356 5.1%	6914 100.0%	188
短大全体の学生数	127 1.8%	367 5.3%	3172 45.9%	2241 32.4%	591 8.6%	414 6.0%	6912 100.0%	190
短大での経験全般について	116 1.7%	350 5.1%	2872 41.6%	2482 35.9%	730 10.6%	358 5.2%	6908 100.0%	194

[32] あなたが志望した大学や短大の中で、本学は何番目でしたか。

	度数	パーセント
第1志望	5371	77.9%
第2志望以下	1522	22.1%
合計	6893	100.0%
無回答	209	

[33] あなたはどのような入学試験を受けて、本学に入学しましたか。

	度数	パーセント
一般入試	830	12.0%
一般と大学入試センター試験の併用型	128	1.9%
大学入試センター試験利用型	128	1.9%
内部進学	259	3.8%
指定校推薦	2670	38.7%
スポーツや課外活動の推薦	88	1.3%
公募推薦	1343	19.5%
AO選考	1155	16.8%
留学生入試	13	0.2%
社会人入試	170	2.5%
その他の試験	107	1.6%
合計	6891	100.0%
無回答	211	

入試方式の3分類

	度数	パーセント
一般入試	1086	15.8%
各種推薦入試	5515	80.0%
その他	290	4.2%
合計	6891	100.0%

※[一般入試]…「一般入試」+「一般入試とセンター試験併用型」+「センター入試利用」

[各種推薦入試]…「内部進学」+「指定校推薦」+「スポーツ等推薦」+「公募推薦」+「AO入試」

[その他]…「留学生入試」+「社会人入試」+「その他の入試」

[34] あなたが本学の受験を決めたのはいつですか。

	度数	パーセント
高校入学前	292	4.3%
高校1年生	401	6.0%
高校2年生	757	11.2%
高校3年生(4月～6月)	1191	17.7%
高校3年生(7月～8月)	1610	23.9%
高校3年生(9月～11月)	1507	22.4%
高校3年生(12月～1月中旬)	517	7.7%
大学入試センター試験終了後	282	4.2%
浪人生時代	175	2.6%
合計	6732	100.0%
無回答	370	

[35-1] あなたのご家族の中に、大学や短大を卒業した人はいらっしゃいますか。

	度数	パーセント
はい	2999	43.9%
いいえ	3548	52.0%
その他	281	4.1%
合計	6828	100.0%
無回答	274	

[35-2] ご家族のうちで大学や短大を卒業した方は、次のうちどなたですか（有効回答 2999名）。

家族内で大学・短大を卒業した方(父親)	度数	パーセント
あてはまる	1454	48.5%
あてはまらない	1545	51.5%
合計	2999	100.0%

家族内で大学・短大を卒業した方(母親)	度数	パーセント
あてはまる	1479	49.3%
あてはまらない	1520	50.7%
合計	2999	100.0%

家族内で大学・短大を卒業した方(兄弟)	度数	パーセント
あてはまる	692	23.1%
あてはまらない	2307	76.9%
合計	2999	100.0%

家族内で大学・短大を卒業した方(姉妹)	度数	パーセント
あてはまる	728	24.3%
あてはまらない	2271	75.7%
合計	2999	100.0%

家族内で大学・短大を卒業した方(その他)	度数	パーセント
あてはまる	142	4.7%
あてはまらない	2857	95.3%
合計	2999	100.0%

[36] あなたの学生生活は充実していますか。

	度数	パーセント
充実している	2337	34.1%
ある程度充実している	2578	37.6%
普通である	1087	15.9%
あまり充実していない	541	7.9%
充実していない	306	4.5%
合計	6849	100.0%
無回答	253	

[37] もし大学や短大を選び直せたら、あなたはもう一度、本学に進学しますか。

	度数	パーセント
かならず進学する	627	9.2%
おそらく進学する	1964	28.8%
おそらく進学しない	1473	21.6%
絶対に進学しない	967	14.2%
わからない	1793	26.3%
合計	6824	100.0%
無回答	278	

第3部 参加校の意見

本調査では、データ入力作業等の整理が終了した平成25年2月に調査参加短期大学ごとの個別集計結果を提供、同年3月中に全体集計結果を中間報告としてまとめ、3月19日付で調査参加短期大学29校に送付した。中間報告にあわせ、以下のアンケートを同封して調査への意見の提出を依頼した。

「短大生調査2012年（JJCSS2012）」についてのアンケート

1. 調査項目について
 - 1-1.調査項目が貴学の学生への質問として
 - 適切であった
 - 大旨適切であった
 - あまり適切でなかった
 - 不適切であった
 - 1-2.適切でなかった、あるいは改善を要すると感じた項目について、具体的にご指摘下さい。
2. 実施時期について
 - 2-1.実施期間（平成24年11月2日～12月13日）は
 - 適切であった
 - 大旨適切であった
 - あまり適切ではなかった
 - まったく適切でなかった
 - 2-2.適切でなかったとお答えの場合、その理由をお書き下さい。
3. 実施方法について、ご意見等をお書き下さい。
4. 平成25年2月にお届けした個別集計結果データについて
 - 4-1.データをどの様に活用されましたか。お教え下さい。
 - 4-2.その他、データについて気が付かれたことがあれば、何でもお書き下さい。
5. 調査全体集計結果・中間報告書について、どのように活用されるかについて、お書き下さい。
6. 本短大生調査全般について
 - 6-1.本短大生調査への参加は
 - 初めてである
 - 2回目である
 - 3回目である
 - 4回目である
 - 6-1-1.これまでに既に1回ないし複数回ご参加いただいている場合、「本校では短大生調査をこのように活用した（活用している）」あるいは「本短大生調査がこのような役に立った」という具体例があればお示し下さい。
 - 6-2.本協会のウェブサイトには短大生調査を基にした学術研究の成果が掲載されてい

ますが、ご存知ですか。

- いいえ、全く知らなかった
- 知ってはいるが、参照したことがない
- 参照したことがある
- よく参照している

6-2-1.本短大生調査に対し、今後どのようなことを期待されますか。

7. その他ご意見、ご感想等をお書き下さい。

参加短期大学 29 校中 20 校からの回答を得た。下記は、そのアンケートの集計結果である。

[アンケート集計結果]

1-1.調査項目が貴学の学生への質問として

- ① 適切であった 6 校
- ② 大旨適切であった 14 校
- ③ あまり適切でなかった 0 校
- ④ 不適切であった 0 校
- ⑤ 無回答 0 校

1-2.適切でなかった、あるいは改善を要すると感じた項目について、具体的にご指摘下さい

- 設問[18]「あなたは今年度、次の活動に 1 週間あたりどれぐらいの時間を費やしましたか」について、時間をトータルに考えるのが、難しい？ボランティア活動、運動やスポーツ等
- 設問[23]「入学した時点と比べて、あなたの能力や知識はどのように変化しましたか」の選択肢 14「外国語の運用能力」は、外国語、英語を含む外国語全般をさすのか？（等説明が不十分）
- 設問[10]「奨学金や授業料免除などの経済的な援助を受けていますか」について、（経済的な援助を）受けていない学生もいたので、選択肢に「援助は受けていない」があると良かった。本学では援助を受けていない学生は「未記入」とした。
- 設問[27]の問いは「女性の生き方として」回答するものであったが、男子学生から質問が出たので「あなたが女性に求める生き方」として回答するよう指示したが、良かったのか不明であった。（説明が不十分）
- 設問[19]「あなたは今年度、次のことがらをどの程度経験しましたか？」という設問中の選択肢に飲酒喫煙等、未成年に禁じられている事項が他の項目と並列で記載されておりました。禁止事項と自由裁量事項が同じ設問内に記載されていたように思います。実際の入学者のほとんどが高等学校新卒者である本学のような短期大学におきましては、若干の違和感がございました。

- 質問項目について、改善が必要と感じたものではありません。
- 質問の意味や答が理解しにくい項目がある。例、設問[24]、設問[14-1]、設問[15-1]等
- 同じような質問が多すぎる。例、設問[15]と設問[31]
- 学生の適応度、人生観、大学での生活経験、補習、学習補助（設問 11、14、15、19、22、24、26）について本学では個々の学生の様子は把握しやすいため、アンケートをする必要を感じない。
- 学校体制に合致していない質問設定で、学生が答えに迷うことがある。（例、受験のしくみ）
- 初めて参加いたしましたので実施にあたり担当者が（調査自体を）把握できず、学生からの質問にも回答できないこともあり不備があったと思います。
- 項目の説明などは特に必要なかったのですが、項目数が多いように感じました。

2-1.実施時期について、実施期間（平成 24 年 11 月 2 日～12 月 13 日）は

- ① 適切であった 8 校
- ② 大旨適切であった 10 校
- ③ あまり適切でなかった 2 校
- ④ まったく適切でなかった 0 校
- ⑤ 無回答 0 校

2-2.適切でなかったとお答えの場合、その理由をお書き下さい。

- 1 年生でも学校の中身に慣れてくるのは、やはり後期に入ってからだと思いますので、適切だと考えます。
- 毎回思うことですが、実施時期が年度末でないために、学習成果が反映されていないと感じます。できるだけ授業が終了する 2 月上旬あたりが望ましいと思います。
- 11 月末が好ましい。早すぎると調査の意味がなく、12 月以降は行事や試験の予定が入ってくるので、全学で実施するのが困難なため。
- 本学で実施する時期としては問題ないと思いますが、学生理解に使用するという点では、もう少し早くても良いかと思います。

3.実施方法について、ご意見等をお書き下さい。

- ホームルームの時間を活用して実施した。
- 一斉実施ではなく、各学科でスケジュールを調整している。
- 年度により、一斉であったり、分割であったりします。2012 年度は、11 月 27 日に学生ホールで全学生一斉に実施いたしました。
- アンケート記入（注、短大生調査のこと）には、かなり時間がかかるので、クラスアワー（ホームルーム）の時間に実施したりしている学科もある。
- 特に問題はありませんでした。
- 複数日に分けて実施したが、時間が予想以上にかかりました。設問の理解度も 1 年生と 2 年生は違いが見られます。

- 1年生と2年生の全学生が受講する科目でアンケート（注、短大生調査のこと）を配布したが、解説する時間をとることができなかった。
- 特段支障なくスムーズに講義時間の一部を割くことで実施できた。
- 教員の講義時間を活用して実施したため、本学も想定よりも時間がかかってしまった。
- 設問[16]の問い「専攻する専門分野」に対して、本学では3学科にも係わらず、10種の分野が回答され、学科別分析に不確定さや手間がかかった。初回参加校に対して、回答項目の指定などの注意文書や実施の手引きがあればよかった。
- アンケート実施（注、短大生調査のこと）につきましては、授業シラバス上適合するものが無く、授業時間外に各学生が自宅等に持ち帰って回答する形式をとりました。そのため回収にかなり時間を要しました。
- 専任教員の必修授業で実施をお願いしていますが、真面目にやる学生は30分かかったとの報告がありました。配布だけで回収する方法も並行して行っていますが、回収率が8割程度であれば、授業配布→事務局回収にしようと考えます。
- 問題なく実施することができました。
- 実施時間が長すぎる。全体で30分で終わるくらいが適当ではないか。45分ほどかかったことによって、疲れてしまい、最後の方の質問に真剣に取りくんでいないように見える学生もいた。
- 学生からは分量が多いという感想が多かった。
- ALO及び協力してもらえる教員の講義の時間を活用して実施したが、アンケート用紙の配付から回収まで、約1時間かかった。アンケートとしては、時間がかかりすぎるので、質問項目の量的な調整が必要と思われる。
- 調査回答のための時間を設けることができず、学生からは時間が足りないとの意見がありました。また、その時間帯に提出できない場合には教務学生担当窓口に提出するように連絡し対応しました。しかし、対応時間が短いため欠席者の把握ができず回収率が少し低くなってしまったので、今後は対応に注意したいと思います。
- 本学では学年ごとに一同に集まる時間を利用して実施しましたので、回収に関しては問題なかったと思います。ただし、項目数が多かったため、予想以上の時間がかかってしまいました。
- クラス指導教員一任で、期間内に調査回収をおこなった。
- 想定より時間がかかった。

4-1.平成25年2月にお届けしたデータについてデータをどの様に活用されましたか。

- 学長始め、学科長、教務部長、学生部長、各課長に回覧。
- 本学が独自に作成したアンケート結果とあわせて、全教職員で集計結果データを共有して、今後の学生支援の改善のために活用した。
- 本学では、12月～1月に2年生を対象にした「学生生活調査」を実施している。この1年生対象の「短大生調査」を実施することで、2年間の学生の動向が見えて大変有効である。
- まだ、活用していません。今回、中間報告書をお送りいただきましたので、本学の個

別集計データと比較し、本学の問題点や本学の特徴を掴みたいと考えています。

- 現在、本学としてのデータを詳細にわたって分析している最中です。
- 専任及び非常勤の教員にも結果データを配布して、講義や学生への指導に反映させて頂くようにした。
- データ上に現れた本学の顕著な特徴を全職員が理解し、今後の大学運営にどのように生かすか議論する機会を設ける（FD 研修会等の形で）。
- とりあえず、単純集計をして、教授会にて配付した。
- 活用方法については、今後、事業担当部署（自己点検・評価室）にて検討をする。また、平成 25 年度に第三者評価（第 2 サイクル）を受審予定としているため、それを踏まえて実施した。
- 本学独自の学生アンケートと近い項目は比較を行い、異なる項目については、ステークホルダーとして、学生の評価として、点検評価に活用した。
- 全国的な結果との比較として活用した。
- この調査より、本学学生の実際の意識を知り、学生指導、カリキュラム作成、FD 活動等に広く活用させていただきたいと思っております。
- 全体データが出てから、関心のある項目だけ比較対照してみました。全体の傾向にほぼ準じている数値でしたが、本学の強みであるボランティア活動が活発なところが読み取れたりしましたし、勉強時間の少なさもまた明らかになったところです。
- 今年は 2 年目ということで、昨年 の 1 年生が今年 は 2 年生になります。その意味で（昨年の結果を使って）時系列分析が出来たことは、大変有益であったと感じます。設問[23]の能力や知識の変化では、明らかに教育効果が見られる部分と改善を要する部分が読み取れたということです。例えば、プレゼンテーション能力は、増えた+大きく増えたと答えた学生が 1 年次 4 割から 2 年次 6 割に増加しています。短大全体集計ではほとんど変化がないことから本学で効果があることが読み取ることが出来ます。どのような狙いが、このような結果に結びついているのか、より細かい検証が必要になりそうです。
- データの活用方法については未定です。
- 2013 年度自己点検・評価報告書のエビデンス資料として。
- 自己点検評価の参考に。
- 時間的な余裕がなく、まったく活用しなかった。今後、全体集計結果・中間報告書と比較しながら分析したい。
- 本学の共有資料として、全教職員が閲覧できるようにしています。そして、本学の学生理解や全国の学生との比較、自己点検評価などに活用しています。
- 現在、分析中であり、活用までに至っていない。
- まだ活用していない。

4-2.その他、データについて気が付かれたことがあれば、何でもお書きください。

- データの累積パーセントですが、設問[26]人生の価値観において（第二部の度数分布表は左から）「まったく重要でない」から「とても重要」へ向けて累積されていますが、できれば肯定的な回答から否定的な回答へと、中間報告書（第一部のグラフ）と比較

しやすいようにしていただければ助かります。

- 設問[27]の問い「女性の生き方として」のクロス集計データに性別がない一方、中間報告書では結果が示されている。中間報告書に対応したグラフを Excel で作成する場合、単純集計データの加工（「100%積み上げ横棒グラフ」作成）に時間がかかった。このための集約したデータを別途準備（プログラムで対応可能と思われる）してほしい。
- 今回のように、1年生と2年生のデータを時系列比較することができると、とても興味深い結果が見えてくるような感想をもちました。
- 役に立つ情報としては①進学動機、②キャリア、③満足度、④入学時からの能力変化、⑤自己認知の5つである。自己点検評価の観点からは③と④がとくに有効に利用できる。①は受験生の分析に使える。
- 設問[20]の「同年齢の人たちと比べて、…どのように自己評価しますか」は、どうしても同級生と比べてになってしまい、世間の同年代の人たちとは比べていないと思われる。
- 送付された個別集計結果データ（度数分布表）は複雑で利用しにくいので、全体集計結果・中間報告のような形式（グラフ）にしてほしい。少なくとも第2部の集計一覧のようなものであれば、利用しやすい。

5.調査全体集計結果・中間報告書について、この中間報告をどのように活用されるかについて、お書き下さい。

- オリエンテーション等で気になる点を学生へ指導する。
- 全教職員で「全体集計結果」「中間報告書」を基に、今後の学生支援の改善に活用したい。
- 自己点検・評価委員会の主導のもとに、各学科が科会を開き、中間報告書を分析している。そして問題点と改善案を検討して、教職員全員が参加する「全学研修会」で発表し、共通認識を持つようにしている。
- 本学の個別データと比較し、本学の問題点や本学の特徴を掴みたいと考えています。
- 設問[26]～[30]の集計結果はキャリア関連の授業の中で活用させていただきたく考えております。
- 本学の点検評価に活用し、PDCA サイクルを回して教育活動を改善していく。
- 本学として分析した後、学務・学生指導面に活用したいと思っている。
- 入試、広報のために分析結果を活用する。
- 各教員の講義や学生への指導に反映させる。
- 比較データとして活用する。
- 第三者評価受審、また本学学生状況を把握するために活用する。
- 他短期大学との比較を行い、より資質の高い学生の育成の為に幅広く活用させていただきたいと考えております。
- 学内的な検討に入りたいのですが、なかなかゆっくり検討する機会がとれないことも実情であります。
- 本学では、検討する前にデータ処理する担当が不在なため、なかなか活用しきれない現状です。より加工が進んだデータ提供を頂けると大変助かると考えています。

- 現在のところ、未定です。活用方法については学科内で今後、検討することになると思います。
- 全体集計は参加校が少ない現在ではあまり利用価値がない。個別大学の資料を作成してほしい。
- 自己点検評価のタイミングを考えると（実施した）年度内に結果をいただけるのが望ましい。
- 自己点検評価及び第三者評価の参考資料として。
- 本学の自己点検・評価活動に活用したい。
- 担当内で回覧しましたが、未だ活用できていません。今後、検討していきます。
- 設問 4 と同様の活用状況です。
- 学内 FD・SD および各種改善・改革に活用する予定である。
- 未定。

6-1.本短大生調査全般について、本短大生調査への参加は

- ① 初めてである 8 校
- ② 2 回目である 5 校
- ③ 3 回目である 4 校
- ④ 4 回目である 3 校
- ⑤ 無回答 0 校

6-1-1.これまでに既に 1 回ないし複数回ご参加いただいている場合、「本校では短大生調査をこのように活用した（活用している）」あるいは「本短大生調査がこのような役に立った」という具体例があればお示し下さい。

- オリエンテーションで学生に話をする材料。
- データをもとに学生委員会で検討をし、教授会へ報告した。
- 短大生調査を分析・検討することにより、的を絞った独自のアンケートを作成して実施した学科があり、学生への指導に役立っている。
- 本学では、2011 年と 2012 年に調査に参加させて頂きました。2011 年の調査結果では、組織的に活用したということではなく、各教員が個別に学生指導に活用する形をとりました。
- まず、本学独自のアンケート項目を考える際に、参考とさせていただいた。さらに、自己点検評価をする際、学生の満足度、自己評価等を活用した。特に問[18]の時間配分は本学独自のアンケートでも、授業時間外の学習時間の不足がよくわかり、学生支援の必要性を把握することができた。
- まだ 2 回しか参加していない為、今後、見検する。
- 残念ながら、現時点では活用実績がありません。今後、活用について模索したいと思います。
- 経年データの活用については現在検討中です。
- 本学の学生気質を理解することができた。経年実施で気質に変化がないことを理解することができた。

6-2.本協会のウェブサイトには短大生調査を基にした学術研究の成果が掲載されていますが、ご存知ですか。

- ① いいえ、全く知らなかった 6校
- ② 知ってはいるが、参照したことがない 10校
- ③ 参照したことがある 4校
- ④ よく参照している 0校
- ⑤ 無回答 0校

6-2-1.本短大生調査に対し、今後どのようなことを期待されますか。

- 短大生が求めるものを把握するために継続的に調査いただければ助かります。
- 継続的なデータを蓄積することによって、短大の意義等を社会に示すなどの活用を期待する。
- 今後短期大学学生調査の学術研究成果を参照させていただきたいと存じます。
- 全体と個別の比較データを処理してもらえると大変興味深いのではないかと予測しています。
- 個別集計データが、とても役に立ちます。地方の女子のみの短大が、全国的な短期大学教育の中で、どのような教育効果を出しているのか。また、今後の課題は何なのか、毎回改善点を知ることができます。できれば補助金によって各短大の負担がなく実施していただけるようになれば大変ありがたいです
- 経年変化がわかるようにするために、データの蓄積を期待します。
- 各短大で質問項目を設定できるよう自由項目があってもよい。
- 学修成果の測定と評価のためのデータが得られるような調査項目を開発してほしい。
- 個別データにおいても、全体集計結果と同様にグラフ化してほしい。
- 調査に要する時間がかかり、設問を簡素化して欲しい。

7.その他ご意見、ご感想等をお書き下さい。

- 予算の関係があると思いますが、本学の結果と全体の結果について、冊子でもらえるとありがたいです。
- 結果に対する対応事例等を御教示願いたい。
- 今回、本学の実施担当となり、本調査の意義深さを改めて認識しました。
- 初めての参加でしたので、学生が設問を理解するのに時間がかかったように思います。調査する担当者の理解も必要に思われました。
- いつも大変お世話になっておりまして、ありがとうございます。他大学様の活用事例、加工事例等御教示くださいましたらありがたく存じます。
- 個人的な質問には無記名といえど答えたがらない学生もいるので、その部分の精度は落ちる可能性がでてくるのではないかと。

この集計結果によれば、今回の学生調査はその質問内容において回答のほとんどが「適切であった」「大旨適切であった」であることから、全体としておおむね適切であったと判断し得る。ただし、その質問内容においては質問項目数の多さや各項目で使用されている語句と表現の難解さ、質問自体の説明不足の点で学生の回答負担が大きくなっていることがうかがえる。

調査の実施時期は、「適切であった」「大旨適切であった」という意見がほとんどである。短大生調査の設問の設定上、入学してからある程度の期間を経た学生への調査が相応しいこともあり、現在の11月から12月にかけての実施時期が適切であることが示されている。実施方法については、講義の時間の一部を割いての一斉実施、講義時間以外のホームルームの時間の利用や、学科や学年・クラス毎に複数日に分けて個別での実施、または自宅に持ち帰って回答し後日提出する等の様々な形態で調査が実施されている。一方では、一部ではあるが調査の実施に想定以上の時間がかかっており、学生への回答の負担を踏まえるとともに設問数の厳選や調査実施のための工夫が求められていると言える。

2012年JJCSS調査の自短期大学のデータおよび全体集計結果・中間報告書の活用方法としては、第三者評価に関連した自己点検・評価報告書の作成の参考とすることや、自短期大学で独自に行っている学生調査との連携、FD活動、学生募集、学生指導、あるいは学生支援の改善等に活かすとともに、他短期大学との比較によって自短期大学の特徴や実態を把握するために役立てるといった意見がみられる。しかしながら、データが現在未活用の状態にある短期大学や、自短期大学の個別集計結果と、参加短期大学全体の集計結果・中間報告書との比較で苦慮されている短期大学も少なからず存在している。その一方では、短大生調査を端緒とした独自のアンケート調査の実施といった展開事例や、2年以上の連続参加によって蓄積された集計データの経年比較、特定の設問に注目したデータ活用の計画といった事例も示されており、短大生調査参加校によるデータ活用の貴重な事例が展開されていると言える。

以上のことから、本調査の今後については、①調査内容と実施方法は、今回のものを基本とすることは適切であるが、調査項目の量的な軽減、使用語句・表現の平易化といった点を引き続き検討し、学生からの質問への回答例といった情報の提供も検討していく必要があるのではないか。②これに加えて、現在の短大生調査は調査票自体のブラッシュアップもさることながら、参加短期大学におけるデータ活用の事例の蓄積が期待できる段階でもあり、これまでに蓄積されたデータを用いた経年比較や、データ処理が比較的容易な形式での集計データの提供、将来的には参加校による集計データ活用事例の紹介も視野に入れたい、と考えている。

JCIRP 短期大学学生調査チーム メンバー一覧(○:研究総括)

氏名	所属機関／職名
○山田 礼子	同志社大学／教授
相原 総一郎	大阪薫英女子短期大学／教授
江原 昭博	同志社大学 学習支援・教育開発センター／専門調査員
森 利枝	大学評価・学位授与機構／准教授
渡辺 達雄	金沢大学／大学教育開発・支援センター

研究協力者

氏名	所属機関／職名
堺 完	同志社大学 高等教育・学生研究センターDC 研究員 [執筆担当：設問 21～37]
山崎 慎一	桜美林大学 総合研究機構／助手 [執筆担当：設問 1～20]

調査研究委員会 委員一覧(○:委員長)

氏名	所属機関／職名
○館 昭	桜美林大学／教授
北村 久美子	北村学園 こだま幼稚園／園長
草原 克豪	拓殖大学／名誉教授
小林 雅之	東京大学 大学総合教育研究センター／教授
清水 一彦	筑波大学／理事・副学長
田中 義郎	桜美林大学／教授
早田 幸政	大阪大学 評価・情報分析室／教授
春山 志郎	東京工業大学／名誉教授
溝上 智恵子	筑波大学／教授
藪 敏晴	佐賀女子短期大学／教授
山田 礼子	同志社大学／教授
吉本 圭一	九州大学大学院／教授